

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第4769929号
(P4769929)

(45) 発行日 平成23年9月7日(2011.9.7)

(24) 登録日 平成23年7月1日(2011.7.1)

(51) Int.Cl.

F 1

A 61 K 38/22	(2006.01)	A 61 K 37/24
A 61 K 31/711	(2006.01)	A 61 K 31/711
A 61 K 48/00	(2006.01)	A 61 K 48/00
C 12 N 15/09	(2006.01)	C 12 N 15/00 Z N A A
A 61 L 33/00	(2006.01)	A 61 L 33/00 Z

請求項の数 21 (全 43 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2000-578021 (P2000-578021)
 (86) (22) 出願日 平成11年10月26日 (1999.10.26)
 (65) 公表番号 特表2002-528420 (P2002-528420A)
 (43) 公表日 平成14年9月3日 (2002.9.3)
 (86) 國際出願番号 PCT/US1999/024054
 (87) 國際公開番号 WO2000/024412
 (87) 國際公開日 平成12年5月4日 (2000.5.4)
 審査請求日 平成18年10月26日 (2006.10.26)
 (31) 優先権主張番号 60/105,587
 (32) 優先日 平成10年10月26日 (1998.10.26)
 (33) 優先権主張国 米国(US)

(73) 特許権者 508088775
 ベジエニクス ピーティーワイ リミテッド
 V E G E N I C S P T Y L T D
 オーストラリア 3142 ヴィクトリア
 トゥーラック ウオラス アベニュー
 10 レベル 1
 (74) 代理人 100117787
 弁理士 勝沼 宏仁
 (74) 代理人 100091487
 弁理士 中村 行孝
 (74) 代理人 100107342
 弁理士 横田 修孝
 (74) 代理人 100111730
 弁理士 伊藤 武泰

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 V E G F - C または V E G F - D 遺伝子またはタンパク質を用いた再狭窄の予防

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

血管内皮増殖因子 D (V E G F - D) ポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を含んでなるポリヌクレオチドを含んでなる、血管の再狭窄の治療または予防に用いるための医薬組成物。

【請求項 2】

血管の再狭窄を 予防または治療するための手術中に血管の表面に接触するように設計された血管内ステントである装置であって、ステントが血管の表面に接触するための外部表面とその表面上の組成物とを含んでなり、その組成物が、 V E G F - D ポリヌクレオチドを含んでなる、装置。

【請求項 3】

血管の再狭窄を 予防または治療するための手術中に血管の表面に接触するように設計された血管外カラーである装置であって、カラーが血管の外部表面を取り巻くような形状の外壁を含んでなり、この壁が、 V E G F - D ポリヌクレオチドを含んでなる組成物を含む間隙を取り囲むことを特徴とする、装置。

【請求項 4】

V E G F - D ポリヌクレオチドを含んでなる組成物を保持する容器と、容器に取り付けられた、または容器と一緒に包装されたラベルであって、血管の再狭窄を 予防または治療するための化合物の使用を記載したラベルとを含んでなる、再狭窄 予防または治療用キット。

【請求項 5】

血管内ステント、血管内カテーテル、血管外カラー、および血管内ステントまたはカテーテルの表面を被覆するのに適した膜からなる群から選択される医療装置を更に含んでなる、請求項 4 に記載のキット。

【請求項 6】

血管の管腔壁に薬剤を送達するためのキャリヤー物質を更に含んでなる、請求項 4 または 5 に記載のキット。

【請求項 7】

キャリヤーが、ヒドロゲルポリマーおよび微粒子ポリマーからなる群から選択される、請求項 6 に記載のキット。

10

【請求項 8】

容器中に包装された V E G F - D ポリヌクレオチドを含んでなる組成物を含んでなる 血管の再狭窄を予防または治療するための単位投与処方物 であって、容器が、再狭窄を 予防または治療するため に処方物を使用するための指示を含むラベルを含んでいることを特徴とする、単位投与処方物。

【請求項 9】

ポリヌクレオチドが、哺乳類 V E G F - D ポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を含んでなる、請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の医薬組成物、装置、キット、または単位投与処方物。

20

【請求項 10】

ポリヌクレオチドが、ヒト V E G F - D ポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を含んでなる、請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の医薬組成物、装置、キット、または単位投与処方物。

【請求項 11】

コードされた V E G F - D ポリペプチドが、配列番号 4 の連続部分を含んでなるアミノ酸配列を含んでなり、その連続部分が配列番号 4 の 93 ~ 201 位からなる、請求項 1 ~ 10 のいずれか一項に記載の医薬組成物、装置、キット、または単位投与処方物。

【請求項 12】

ポリヌクレオチドが配列番号 4 のアミノ酸 1 ~ 92 をコードするヌクレオチド配列を欠いている、請求項 11 に記載の医薬組成物、装置、キット、または単位投与処方物。

30

【請求項 13】

ポリヌクレオチドが、配列番号 4 のアミノ酸 202 ~ 354 をコードするヌクレオチド配列を欠いている、請求項 11 または 12 に記載の医薬組成物、装置、キット、または単位投与処方物。

【請求項 14】

V E G F - D ポリペプチドをコードするポリヌクレオチドが、50% ホルムアミド、5% X S S C、20 mM NaPO₄、pH 6.8 中 42 °C でハイブリダイゼーション、および 1 X S S C 中で 55 °C にて 30 分間洗浄の典型的なストリンジエントハイブリダイゼーション条件下で、配列番号 3 で特定されたヒト V E G F - D 配列に相補的なポリヌクレオチドにハイブリダイズするヌクレオチド配列であって、かつヒト V E G F R - 2 および V E G F R - 3 の受容体に結合して、それらの受容体のリン酸化を刺激する V E G F - D ポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を含んでなるポリヌクレオチドを含んでなる、請求項 1 ~ 10 のいずれか一項に記載の医薬組成物、装置、キット、または単位投与処方物。

40

【請求項 15】

ポリヌクレオチドが分泌シグナルペプチドをコードするヌクレオチド配列を更に含んでなり、分泌シグナルペプチドをコードする配列が V E G F - D ポリペプチドをコードする配列とインフレームで結合している、請求項 1 ~ 14 のいずれか一項に記載の医薬組成物、装置、キット、または単位投与処方物。

【請求項 16】

50

ポリヌクレオチドが、分泌シグナルペプチドおよびVEGF-Dポリペプチドをコードする配列に作動可能に連結したプロモーター配列を更に含んでなり、プロモーター配列が哺乳類細胞において分泌シグナル配列およびVEGF-Dポリペプチドをコードする配列の転写を促進する、請求項15に記載の医薬組成物、装置、キット、または単位投与処方物。

【請求項17】

ポリヌクレオチドが、VEGF-Dポリペプチドをコードする配列に作動可能に連結したポリアデニル化配列を更に含んでなる、請求項15または16に記載の医薬組成物、装置、キット、または単位投与処方物。

【請求項18】

組成物が、遺伝子療法ベクターを含んでなり、その遺伝子療法ベクターが前記ポリヌクレオチドを含んでなる、請求項1～17のいずれか一項に記載の医薬組成物、装置、キット、または単位投与処方物。

【請求項19】

ベクターが、複製欠損アデノウイルスを含んでなり、そのアデノウイルスがプロモーターに作動可能に連結し、かつ、アデノウイルスポリヌクレオチド配列が隣接しているポリヌクレオチドを含んでなる、請求項18に記載の医薬組成物、装置、キット、または単位投与処方物。

【請求項20】

VEGF-Dポリペプチドが、
(a)配列番号4のアミノ酸配列、または配列番号4の93～201位からなる配列番号4の連続部分；および

(b)1～数個のアミノ酸が付加、欠失または他のアミノ酸に置換された(a)の類似体であって、VEGFR-2およびVEGFR-3の受容体に結合し、それらの受容体のリン酸化を刺激する類似体

からなる群から選択されるアミノ酸配列を含んでなる、請求項1～19のいずれか一項に記載の医薬組成物、装置、キット、または単位投与処方物。

【請求項21】

組成物が、薬学上許容可能なキャリヤーを更に含んでなる、請求項1～20のいずれか一項に記載の医薬組成物、装置、キット、または単位投与処方物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

発明の分野

本発明は、血管の狭窄および再狭窄を予防する材料および方法に関し、一般的には循環器薬の分野に関する。

【0002】

冠動脈疾患は、世界中、特に米国および欧州での罹病率および死亡率の主要な原因となっている。経皮的経管的冠動脈形成（例えば、冠動脈内ステンティングを行うまたは行わないバルーン血管形成）はこのような疾患に最もよく用いられかつ成功率の高い治療法であり、米国だけでも年に数十万回行われている。しかしながら、このような血管再生法の1/3～1/2程度で、再狭窄が起こる。再狭窄の経済コストは、米国だけでも年に20億ドルと計算されている[Feldman et al., Cardiovascular Research, 32: 194-207 (1996)；この文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される]。剖検およびアテレクトミー研究により、再狭窄損傷の主要な組織学的成分として脈管内膜過形成が確認されている[Cerek et al., Am. J. Cardiol., 68: 24C-33C (1991)]。

【0003】

再狭窄は、末梢血管で行われる血管形成においても関心を集めている。同様に、狭窄は、心臓バイパス療法、または末梢血管虚血や間欠跛行の治療のための血管（例えば、移植したおよび移植した人工血管）移植後の臨床的関心事である（例えば、膝上大腿膝窩動脈バイパス移植片）。

10

20

30

40

50

【 0 0 0 4 】

Mazur et al., Texas Heart Institute Journal, 21: 104-111 (1994)には、再狭窄は主として経皮冠動脈形成によって引起される損傷に対する動脈の応答であり、内皮細胞およびその下の中膜の平滑筋細胞の脈管内膜層を崩壊させることが述べられている。この著者は、血小板、内皮細胞、マクロファージおよび平滑筋細胞によって分泌される複数の増殖因子が再狭窄過程に機械的に関与しており、平滑筋細胞の増殖が決定的な病因であることを述べている。著者らによれば、この平滑筋細胞の増殖は機械的および薬物療法に抗療性であることが明らかになった。更に最近、他の研究者らは、平滑筋細胞の増殖が再狭窄に極めて重要である(of penultimate importance)かどうかに異議を唱えている。Libby, Circ. Res., 82: 404-406 (1998)を参照されたい。

10

【 0 0 0 5 】

Nairns et al., Circulation, 97: 1298-1305 (1998)は、再狭窄の予防における冠動脈内ステントの使用およびそれらの利点と限界について概説している。Debbas et al., American Heart Journal, 133: 460-468 (1997)は、ステント内でステンディングを行い、ステント内再狭窄を治療することを記載している。

【 0 0 0 6 】

Chang & Leiden, Semin. Intervent. Cardiol., 1: 185-193 (1996) (この文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される)は、再狭窄を治療するための体腔遺伝子療法を概説している。Chang & Leidenは、複製欠損アデノウイルスが再狭窄の予防を目的とする遺伝子療法の有望かつ安全なベクター系であることを教示しているが、このウイルスは血管平滑筋など広汎な種類の細胞型に効率的に感染することができ、このウイルスは高力価で產生することができ(例えば、 $10^{10} \sim 10^{12}$ プラーク形成単位/ml)、このウイルスは大きさが例えば、7 ~ 9 キロ塩基 (kb) のトランスジーンを収容することができ、このウイルスは標準的なカテーテルにより経皮的に送達することができ、かつこのウイルスは宿主ゲノムに組込まれないからである。Chang & LeidenおよびFeldman et al. (上記引用)は共に、再狭窄の特徴である新内膜形成に関与すると考えられている増殖する血管平滑筋細胞を殺しまたは阻止するようにデザインされている細胞毒性および細胞増殖抑制遺伝子療法も概説している。

20

【 0 0 0 7 】

Riessen & Isner, J. Am. Coll. Cardiol., 23: 1234-1244 (1994) (この文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される)には、血管内薬剤送達の装置および血管内遺伝子療法のベクターが概説されている。

30

【 0 0 0 8 】

Cerek et al., Am. J. Cardiol., 68: 24C-33C (1991)には、動脈損傷の増殖因子による治癒を抑制することによる再狭窄の予防が示唆されている。血小板由来の増殖因子 (PDGF)、トロンボスpongin、インスリン様増殖因子1 (IGF-1)、纖維芽細胞増殖因子 (FGF)、トランスフォーミング増殖因子 (TGF-) および (TGF-)、上皮増殖因子 (EGF) の潜在的役割が記載されている。

【 0 0 0 9 】

Isner & Asaharaの国際特許公表WO 98/19712号明細書(この特許明細書の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される)では、患者の内皮前駆細胞を単離し、この細胞を患者に再投与することによって損傷した血管を治療し、血管形成後の再内皮形成を促進することが示唆されている。この著者は、血管内皮増殖因子 (VEGF) または塩基性纖維芽細胞増殖因子 (bFGF) のような新脈管形成促進増殖因子を用いることの有効性は、VEGFまたはbFGFがその効果を発揮する内皮細胞を欠いているため限定されることがあることを示唆している。

40

【 0 0 1 0 】

Martin et al.の国際特許公表WO 98/20027号明細書には、VEGF遺伝子またはタンパク質を用いて血管の狭窄または再狭窄を治療または予防することが示唆されている。著者らは、VEGFの好ましい効果が、内皮が損傷していた場合の再内皮形成の刺激

50

に関する V E G F の活性の基礎となっている機構以外の異なる作用機構から生じることを示唆している。

【 0 0 1 1 】

Callow et al., *Growth Factors*, 10: 223-228 (1994) には、血管透過因子 (V E G F としても知られている) をバルーン血管形成によって誘発された内皮露出を行ったウサギに静脈内投与すると、対照と比較して内皮の再生が増加したことが記載されている。著者らは、塩基性纖維芽細胞増殖因子 (b F G F) が再内皮形成の促進に友好であるが、この再内皮形成は新内膜損傷の大きさの増加を伴うことも述べている。

【 0 0 1 2 】

Asahara et al., *Circulation*, 94: 3291-3302 (December 15, 1996) は、 C M V - ヒト - V E G F ₁₋₆₋₅ トランスジーンの局部経皮カテーテル送達によりバルーンにより損傷したウサギにおける再内皮形成が促進され、内膜の肥厚化が少なくなったことを述べている。著者の関連グループの報告である Van Belle et al., *J. Am. Coll. Cardiol.*, 29: 1371-1379 (May, 1997) は、ステント内皮形成が C M V - ヒト - V E G F ₁₋₆₋₅ トランスジーンの送達によって促進されかつ内膜の肥厚化もみられたことを述べている。

10

【 0 0 1 3 】

Morishita et al., *J. Atherosclerosis and Thrombosis*, 4(3): 128-134 (1998) は、肝細胞増殖因子 (H G F) は V E G F より強いヒト内皮細胞に対する分裂促進作用を有することを述べてあり、 H G F 遺伝子療法が血管形成後の再狭窄のような循環器疾患の治療に潜在的な治療価値を有する可能性があるという仮説を立てた。Morishita et al. は、内皮細胞のみを刺激し、血管平滑筋細胞は刺激しない増殖因子についてはほとんど知られていないことも述べている。

20

【 0 0 1 4 】

DeYoung & Dichek, *Circ. Res.*, 82: 306-313 (1998) は、 V E G F 遺伝子送達は現在のところヒトの冠動脈再狭窄用いられる予定になっているとは思われず、かつ 2 つの独立した研究は V E G F 送達が動脈の内膜過形成を実際に悪化させることがあることを示唆していることを述べている。

【 0 0 1 5 】

Brown et al. の米国特許第 5,795,898 号明細書は、 P D G F 、 F G F 、 E G F または V E G F シグナル形成の阻害剤を用いて血管形成後の冠状血管または他の動脈の再狭窄に関与するアテローム発生の促進を抑制することを提案している。

30

【 0 0 1 6 】

上記の論文は、血管形成材料および / または方法の改良、および / または補助療法を行つて再狭窄の事例を減少させるための久しく感じていた要望が存在し続けていることを示している。

【 0 0 1 7 】

発明の概要

本発明は、哺乳類の血管における狭窄または再狭窄を予防するための材料および方法を提供することにより医薬の分野で久しく感じられてきた要望を解決する。

【 0 0 1 8 】

例えば、本発明は、被験哺乳類を治療して血管の狭窄または再狭窄を予防する方法であつて、血管の狭窄または再狭窄を予防するための治療を必要とする被験哺乳類に、ポリヌクレオチドを含んでなる組成物であつて、ポリヌクレオチドが血管内皮増殖因子 C (V E G F - C) ポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を含んでなるものである組成物を投与する工程を含んでなる方法を提供する。好ましい態様では、被験動物はヒト被験者である。

40

【 0 0 1 9 】

V E G F - C ポリヌクレオチドは狭窄を予防する目的で純粋に予防治療として投与することができると考えられるが、好ましい態様では、経皮経腔冠動脈形成法の直前および / または同時および / または直後に被験者の血管の再狭窄を予防する目的でポリヌクレオチド

50

を投与することが考えられる。もう一つの好ましい態様では、ポリヌクレオチドをバイパス処置（例えば、冠状動脈バイパス法）の前、中および／または直後に投与し、移植血管中または付近での狭窄または再狭窄、特に移植片自身の場所における狭窄を予防する。更に好ましい態様では、ポリヌクレオチドを、末梢虚血または間欠性跛行を治療する目的で行った末梢血管での血管移植の前、中または後に投与する。狭窄または再狭窄の予防とは、外科処置で頻繁にみられる狭窄または再狭窄の量／激しさを減少させ、および／または実質的に除去するための予防的治療を意味する。ポリヌクレオチドは、被験哺乳類の血管において VEGF - C ポリペプチドの発現を促進するのに有効な量および形態で組成物に含まれ、これにより血管の狭窄または再狭窄が予防される。

【0020】

10

好ましい態様では、被験哺乳類は、ヒト被験者である。例えば、被験者は、（血管内ステントを挿入したまたは挿入しない）治療的バルーン血管形成法または冠動脈バイパス法により快復の可能性がある候補者として心臓専門医によって確認されている冠動脈疾患に罹っているヒトである。他の被験哺乳類、特にヒトでの治療効果を示すためのモデルとして一般に用いられている哺乳類（例えば、靈長類、ブタ、イヌまたはウサギ）における本発明の方法の実施も考えられる。

【0021】

本発明の方法の実施について、「VEGF - C ポリペプチド」という用語は、VEGF - C または VEGF - C 類似体アミノ酸配列（本明細書の他の箇所で更に詳細に定義する）を有しあつヒト VEGF - C のイン・ビボでの再狭窄減少作用を有する任意のポリペプチド含むことを意図するものであり、この作用は本明細書ではウサギモデルでの例によって示される。「VEGF - C ポリヌクレオチド」という用語は、VEGF - C ポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を含んでなる任意のポリヌクレオチド（例えば、一本鎖または二本鎖の DNA または RNA ）を含むことを意図するものである。遺伝子コードの周知の縮重により、任意の選択された VEGF - C ポリペプチドをコードする複数の VEGF - C ポリヌクレオチド配列がある。

20

【0022】

ヒトの治療には、ヒト VEGF - C のアミノ酸配列を有する VEGF - C ポリペプチドが特に好ましく、ヒト VEGF - C cDNA のヌクレオチド配列を含んでなるポリヌクレオチドが特に好ましい。「ヒト VEGF - C」とは、ヒト VEGF - C 遺伝子の任意の対立遺伝子によってコードされる天然に存在するタンパク質（プレプロタンパク質、部分プロセス型タンパク質 (partially-processed protein)、または完全プロセス型成熟タンパク質 (fully-processed mature protein) ）に相当するポリペプチド、または天然に存在する成熟タンパク質の生物活性断片を含んでなるポリペプチドを意味する。例えば、ヒト VEGF - C は、ポリペプチドに結合させ、VEGFR - 2 および／または VEGFR - 3 レセプターを発現する細胞中でこれらのレセプターのホスホリル化を刺激するのに十分な配列番号 2 に記載のアミノ酸配列の連続部分を含んでなる。配列番号 2 のアミノ酸 131 ~ 211 を含んでなるポリペプチドが、特に考えられる。例えば、配列番号 2 の連続部分を含んでなるアミノ酸配列を有するポリペプチドであって、連続部分がそのアミノ末端として配列番号 2 の 30 ~ 131 位からなる群から選択されるアミノ酸を有し、かつそのカルボキシル末端として配列番号 2 の 211 ~ 419 位からなる群から選択されるアミノ酸を有するものが考えられる。本明細書の他の箇所で更に詳細に説明するように、VEGF - C 生物活性、特に VEGFR - 2 を介して伝達されるものは、アミノ末端およびカルボキシル末端のプロペプチドのプロセッシングによって増加する。従って、配列番号 2 の 102 ~ 131 位からなる群から選択されるアミノ末端が好ましく、配列番号 2 の 103 ~ 113 位からなる群から選択されるアミノ末端が特に好ましい。同様に、配列番号 2 の 211 ~ 227 位からなる群から選択されるカルボキシル末端が好ましい。上記のように、「ヒト VEGF - C」という用語は、配列番号 1 および 2 に記載の配列を特徴とするヒト VEGF - C の対立遺伝子変異体によってコードされるポリペプチドを包含しようとするものもある。

30

40

50

【0023】

更に、治療用 VEGF-C は組換え VEGF-C としてまたは体性遺伝子療法により間接的に投与されるものであるので、1個以上のアミノ酸を加え、欠失し、または他のアミノ酸、特に保存的置換で置換しつつ抗再狭窄生物活性を保持しているヒト VEGF-C の類似体（およびこのような類似体をコードするポリヌクレオチド）を作成し、使用することは当該技術分野の技術の範囲内にある。抗再狭窄 VEGF-C 生物活性を保持している類似体は、本発明で用いられる VEGF-C ポリペプチドと考えられる。好ましい態様では、1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24 または 25 の改質を有し、抗再狭窄 VEGF-C 生物活性を保持している類似体は、本発明で用いられる VEGF-C ポリペプチドと考えられる。このような類似体をコードするポリヌクレオチドは、通常の PCR、位置指定突然変異誘発、および化学合成の手法を用いて生成させる。10

【0024】

非ヒト哺乳類またはトリ VEGF-C ポリペプチドおよびポリヌクレオチドも、VEGF-C ポリペプチドと考えられる。「哺乳類 VEGF-C」とは、任意の方法にの VEGF-C 遺伝子の任意の対立遺伝子によってコードされる天然に存在するタンパク質（プレプロタンパク質、部分プロセス型タンパク質 (partially-processed protein)、または完全プロセス型成熟タンパク質 (fully-processed mature protein)）に相当するポリペプチド、または成熟タンパク質の生物活性断片を含んでなるポリペプチドを意味する。「哺乳類 VEGF-C ポリペプチド」という用語は、哺乳類 VEGF-C のイン・ビボでの再狭窄減少作用を有する哺乳類 VEGF-C の類似体を含むことを意図するものである。トランジーンコードヒト VEGF-C を用いる遺伝子療法がウサギモデルで再狭窄を予防するのに有効であるという事実は、VEGF-C タンパク質の種間治療効力があることの証拠である。20

【0025】

どの VEGF-C が選択されるかについては関係なく、VEGF-C ポリヌクレオチドは、好ましくは VEGF-C ポリペプチド配列とインフレームで融合した分泌シグナルペプチドをコードするヌクレオチド配列を含んでなる。分泌シグナルペプチドはポリヌクレオチドを発現する細胞によって VEGF-C ポリペプチドの分泌を指示し、分泌された VEGF-C ポリペプチド由来の細胞によって開裂する。例えば、VEGF-C ポリヌクレオチドは配列番号 2 に記載の完全なプレプロ-VEGF-C 配列をコードすることができ、または完全プロセス型 VEGF-C（例えば、配列番号 2 のアミノ酸 103 ~ 227）または VEGF-C 類似体をコードする配列にインフレームで融合した VEGF-C シグナルペプチドをコードすることができた。更に、シグナルペプチドを VEGF-C から誘導する必要はない。シグナルペプチド配列は、別の分泌されたタンパク質のものであることができ、または被験哺乳類の細胞で分泌を指示するのに有効な完全に合成のシグナル配列であることができる。30

【0026】

一つの態様では、本発明の VEGF-C ポリヌクレオチドは、50% ホルムアミド、5% SSC、20 mM NaPO₄、pH 6.8 中 42° でハイブリダイゼーション、および 1 X SSC 中で 55° にて 30 分間洗浄の典型的なストリンジェントハイブリダイゼーション条件下で、配列番号 1 に記載のヒト VEGF c DNA 配列に相補的なポリヌクレオチドにハイブリダイズし、かつヒト VEGFR-2 および / または VEGFR-3 に結合して、刺激するポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を含んでなる。これらの典型的な条件での変動は、ハイブリダイゼーションを行う配列の長さおよび GC ヌクレオチド含量に基づいて起こることが理解される。当該技術分野における標準的な式は、適当なハイブリダイゼーション条件を決定するのに適当である。Sambrook et al., Molecular Cloning: A Laboratory Manual (第 2 版, Cold Spring Harbor Laboratory Press, 1989)、9.47-9.51 節を参照されたい。40

【0027】

好ましい態様では、VEGF-C ポリヌクレオチドは、VEGF-C 遺伝子療法を促進するために追加の配列をも含んでなる。一つの態様では、「裸の」VEGF-C トランスジーン（すなわち、トランスフェクションを促進するためのウイルス、リポソームまたは他のベクターを持たないトランスジーン）を遺伝子療法に用いる。この態様では、VEGF-C ポリヌクレオチドは、好ましくは標的哺乳類細胞で発現するための適当なプロモーターおよび／またはエンハンサー配列（例えば、サイトメガロウイルスプロモーター／エンハンサー[Lehner et al., J. Clin. Microbiol., 29: 2494-2502 (1991); Boshart et al., Cell, 41: 521-530 (1985)]；ラウス肉腫ウイルスプロモーター[Davis et al., Hum. Gene Ther., 4: 151 (1993)]；タイププロモーター(Tie promoter)[Korhonen et al., Blood, 86(5): 1828-1835 (1995)]；またはサルウイルス40プロモーター）であって、プロモーターが VEGF-C コード配列の上流（すなわち、5'）に適切に結合しているものも含んでなる。VEGF-C ポリヌクレオチドはまた、好ましくは VEGF-C コード配列の下流（すなわち、3'）に作動可能に結合した適当なポリアデニル化配列（例えば、SV40 またはヒト成長ホルモン遺伝子ポリアデニル化配列）をも含む。ポリヌクレオチドは、場合によっては、唯一の意図した機能が例えば複製の細菌起源のような、細菌におけるベクターの大規模酸性を促進することである配列、および選択可能なマーカーをコードする配列も含んでなることができる。しかしながら、好ましい態様では、このような異種配列は、本発明の方法によってヒトに投与する前に少なくとも部分的に開裂している。他のトランスジーンについての文献に記載されている手順を用いて良好な遺伝子療法を行うために、このようなポリヌクレオチドを製造して、投与することができる。例えば、Isner et al., Circulation, 91: 2687-2692 (1995); Isner et al., Human Gene Therapy, 7: 989-1011 (10)

1996)を参照されたい。上記文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。
。

【0028】

任意の適当なベクターを用いて、VEGF-C トランスジーンを宿主に導入することができる。文献に記載されている典型的なベクターとしては、レンチウイルスペクター[Kim et al., J. Virol., 72(1): 811-816 (1998); Kingsman & Johnson, Scrip Magazine, October, 1998, pp. 43-46]；アデノ随伴ウイルスペクター[Gnatenko et al., J. Investig. Med., 45: 87-98 (1997)]；アデノウイルスペクター [例えば、米国特許第 5,792,453 号明細書; Quantin et al., Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 89: 2581-2584 (1992) ; Stratford-Perricaudet et al., J. Clin. Invest., 90: 626-630 (1992)；およびRosenfeld et al., Cell, 68: 143-155 (1992)]；リポフェクチン依存性遺伝子導入 (BRL)；リポソームベクター [例えば、米国特許第 5,631,237 号明細書 (センダイウイルスタンパク質を含んでなるリポソーム)]；およびそれらの組合せなどの複製欠損レトロウイルスペクターが挙げられるが、これらに限定されない。上記文献の総ての内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。複製欠損アデノウイルスペクターは、好ましい態様を構成する。
。

【0029】

ウイルスペクターを用いる態様では、好ましいポリヌクレオチドは、更に上記のような適当なプロモーターおよびポリアデニル化配列が挙げられる。更に、これらの態様では、ポリヌクレオチドは VEGF-C ポリペプチドをコードする配列に作動可能に結合したベクターポリヌクレオチド配列（例えば、アデノウイルスポリヌクレオチド配列）も挙げられる。
。

【0030】

従って、一つの態様では、投与を行う組成物は、ベクターであって、VEGF-C ポリヌクレオチドを含んでなるベクターを含んでなる。好ましい態様では、ベクターはアデノウイルスペクターである。極めて好ましい態様では、アデノウイルスペクターは複製欠損であり、すなわちアデノウイルスゲノムから本質的なウイルス複製配列が欠失しているため被験哺乳類では複製することができない。例えば、本発明者らは、ベクターが複製欠損ア (40) (50)

デノウイルスであって、プロモーターに作動可能に結合しかついでそれかの末にアデノウイルスポリヌクレオチド配列によって隣接した VEGF-C ポリヌクレオチドを含んでなるアデノウイルスを含んでなる方法を考慮している。

【 0 0 3 1 】

本発明の方法によって投与を行う組成物は、好ましくは（ポリヌクレオチドまたはベクターの他に）治療薬を血管内送達するのに一般に用いられる水、食塩水、リン酸緩衝食塩水、グルコースまたは他のキャリヤーのような薬学上許容可能なキャリヤー溶液を含んでなる。多重遺伝子療法であって、組成物が場合によっては VEGF-C ポリヌクレオチド / ベクターおよび再狭窄を予防する目的で選択された別のポリヌクレオチド / ベクターを両方とも含んでなるものも考えられる。VEGF-C トランスジーンを用いるコトランスフェクションのための典型的な候補遺伝子 / ベクターは上記文献に記載されており、細胞毒性因子、細胞増殖抑制因子、内皮増殖因子、および平滑筋細胞増殖 / マイグレーションインヒビターをコードする遺伝子が挙げられる。以下において更に詳細に説明するように、VEGF-D は、VEGF-C トランスジーンとの同時投与の好ましい候補である。VEGF トランスジーンの同時投与も、具体的に考慮される。

10

【 0 0 3 2 】

本発明の方法によって行われる「投与」は、治療薬を被験哺乳類の血管に直接または間接的に導入するための任意の医学上許容された手段を用いて行うことができ、注射、経口摂取、経鼻または局所投与などが挙げられるが、これらに限定されない。好ましい態様では、VEGF-C ポリヌクレオチドを含んでなる組成物の投与は、静脈内、動脈内、または冠動脈内注射のように血管内に行われる。

20

【 0 0 3 3 】

極めて好ましい態様では、組成物は、局所、例えば血管形成の部位またはバイパスに投与される。例えば、投与は、被験哺乳類の血管、特に被験哺乳類の冠動脈へのトランスジーンを含む組成物のカテーテルによる導入である。局所送達のための典型的な材料および方法は、Lincoff et al., Circulation, 90: 2070-2084 (1994) および Wilensky et al., Trends Cardiovasc. Med., 3: 163-170 (1993) に概説されており、上記文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。例えば、組成物は、冠動脈内への薬剤輸液の文献に記載されているものなど輸液 - 灌流バルーンカテーテル（好ましくは、多孔性バルーンカテーテル）を用いて投与される。例えば、米国特許第 5,713,860 号明細書（輸液アレイを有する血管内カテーテル）；米国特許第 5,087,244 号明細書；米国特許第 5,653,689 号明細書；および Wolinsky et al., J. Am. Coll. Cardiol., 15: 475-481 (1990)（ウォリンスキー輸液カテーテル）；および Lambert et al., Coron. Artery Dis., 4: 469-475 (1993) を参照されたい。上記の総ての文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。位置指定体細胞遺伝子療法へのこれらのカテーテルの使用は、例えば Mazur et al., Texas Heart Institute Journal, 21: 104-111 (1994) に記載されており、上記文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。

30

VEGF-C トランスジーンをアデノウイルスベクターに投与する態様では、このベクターは、好ましくは $10^7 \sim 10^{13}$ のウイルス粒子の力値で、更に好ましくは $10^9 \sim 10^{11}$ ウイルス粒子の力値で薬学上許容可能なキャリヤー内で投与される。アデノウイルスベクター組成物は、好ましくは 15 秒 ~ 30 分間、更に好ましくは 1 ~ 10 分間輸液する。

40

【 0 0 3 4 】

例えば、冠動脈の単一または複数の損傷による狭心症の患者であって、冠動脈血管造影の一次所見に基づいて P T C A が処方された患者では、典型的プロトコールは大腿部法を用いる標準的臨床実施による 7 F ガイドカテーテルを介する P T C A を行うことを含む。P T C A 単独では最適結果が得られない場合には、血管内ステントも移植する。（最適でない結果は、目視評価、および B および C 型切開による管腔直径の > 30 % の残存狭窄として定義される。）バルーン拡張の部位における動脈遺伝子導入は、血管形成の直後でステント移植の前に、輸液 - 灌流バルーンカテーテルを用いて複製欠損アデノウイルス VEG

50

F - C ベクターで行う。カテーテルの大きさは、血管造影図から測定した動脈の直径に合うように選択され、例えば、3 . 0 ~ 3 . 5 F の直径となる。バルーンを最適圧力まで膨張させ、ウィルス力値 $1 . 1 5 \times 1 0 ^{10}$ で 0 . 5 ml / 分の速度で 10 分間の輸液中に行う。

【 0 0 3 5 】

もう一つの態様では、他のトランスジーンを導入するために文献に記載されているように、ゲルをコーティングしたカテーテルを用いる血管内投与が考えられる。例えば、米国特許第 5 , 6 7 4 , 1 9 2 号明細書（強靭に付着した膨張性ヒドロゲルポリマーをコーティングしたカテーテル）；Riessen et al., Human Gene Therapy, 4: 749-758 (1993); およびSteg et al., Circulation, 96: 408-411 (1997) および 90: 1648-1656 (1994) を参照されたい。これらの総ての文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。簡単に説明すれば、DNA の溶液（例えば、VEGF - C ポリヌクレオチド）をヒドロゲルポリマーをコーティングした膨張した血管形成カテーテルバルーンの表面にエクス・ビボで 1 回以上塗布する（例えば、ヒドロプラスを有するスライダー（Slider with Hydropulse），Mansfield Boston Scientific Corp., Watertown, MA）。ヒドロプラスコーティングは、親水性のポリアクリル酸ポリマーであって、バルーンに架橋して、バルーンにしっかりと付着した高分子量ヒドロゲルを形成する。DNA で被覆されたヒドロゲルを乾燥した後、バルーンをすばませる。血管形成法の際にバルーンを血管内で再膨張させることにより、DNA が血管壁に導入される。

【 0 0 3 6 】

更にもう一つの態様では、バルーン血管形成カテーテルまたはステントに配置されたまたはこれと一体的な膨張性の弾性膜または同様の構造を用いて、VEGF - C トランスジーンを送達する。例えば、米国特許第 5 , 7 0 7 , 3 8 5 号、第 5 , 6 9 7 , 9 6 7 号、第 5 , 7 0 0 , 2 8 6 号、第 5 , 8 0 0 , 5 0 7 号および第 5 , 7 7 6 , 1 8 4 号明細書を参照されたい。上記の総ての文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。

【 0 0 3 7 】

もう一つの態様では、VEGF - C トランスジーンを含む組成物を、例えば血管の一部を取り囲みまたはカプセル化する装置を用いて血管外に投与する。例えば、（バイパス処置の際などに）動脈の外側に置き、プラスミドまたはリポソームベクターを介して動脈壁にトランスジーンを送達するカラーが記載されている国際特許公表 WO 98 / 2 0 0 2 7 号明細書（この特許明細書の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される）を参照されたい。

【 0 0 3 8 】

更にもう一つの態様では、内皮細胞または内皮前駆細胞を VEGF - C トランスジーンでエクス・ビボでトランスフェクションし、トランスフェクションした細胞を被験哺乳類に投与する。血管移植片に遺伝子修飾した内皮細胞を播種するための典型的手順は、米国特許第 5 , 7 8 5 , 9 6 5 号明細書に記載されており、上記特許明細書の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。

【 0 0 3 9 】

被験哺乳類が血管移植片を受け入れているときには、VEGF - C トランスジーンを含む組成物を単離した血管断片に直接適用した後、イン・ビボで移植することができる。

【 0 0 4 0 】

もう一つの態様では、本発明は、血管の狭窄または再狭窄を予防するための被験哺乳類の治療法であって、血管の狭窄または再狭窄を予防するための治療を必要とする被験哺乳類に、血管の狭窄または再狭窄を予防するための有効量の VEGF - C ポリペプチドを含んでなる組成物を投与する段階を含んでなる方法を提供する。好ましい態様では、投与は、血管内ステントを被験哺乳類に移植することを含んでなり、このステントは組成物をコーティングまたは含浸させている。薬剤をコーティングしたまたは薬剤を含浸したステントを構築するための典型的な材料は上記文献に記載されており、Lincoff et al., Circulat

10

20

30

40

50

ion, 90: 2070-2084 (1994) に概説されている。もう一つの好ましい態様では、組成物は、PGLA、非分解性ポリマー、または生物学的ポリマー（例えば、澱粉）のような生物分解性ポリマーからなる微粒子であって、VEGF-C ポリペプチドでカプセル化または含浸しているものを含んでなる。このような粒子は、輸液血管形成カテーテルなどを用いて血管壁に送達される。局部的に持続した薬剤送達を行うための他の手法は、Wilensky et al., Trends Cardiovasc. Med., 3: 163-170 (1993) に概説されており、上記文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。

【0041】

血管形成またはバイパス処置の後に1回以上の静脈内注射による投与も考えられる。処置の部位へのVEGF-C ポリペプチドの局在化は、増殖する内皮細胞上でのVEGF-C レセプターの発現によって起こる。局在化は、（例えば、Shih et al., Proc. Nat'l. Acad. Sci. USA, 87: 1436-1440 (1990) に記載のアポリポタンパク質 B - 100 オリゴペプチドに融合した）融合ポリペプチドとして VEGF-C を組み換え発現することによっても促進される。VEGF-C ポリヌクレオチドと VEGF-C ポリペプチドの同時投与も考えられる。

【0042】

更にもう一つの態様では、本発明は、血管の狭窄または再狭窄の治療または予防用の医薬を製造するための VEGF-C ポリヌクレオチドまたは VEGF-C ポリペプチドの使用を提供する。

【0043】

更にもう一つの態様では、本発明は、血管の狭窄または再狭窄を予防するための被験哺乳類の治療法であって、血管の狭窄または再狭窄を予防するための治療を必要とする被験哺乳類にポリヌクレオチドを含んでなる組成物であって、ポリヌクレオチドが血管内皮増殖因子 D (VEGF-D) ポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を含んでなるものを投与する段階を含んでなる方法を提供する。このような方法は、VEGF-D をコードするポリヌクレオチドを用いること以外は VEGF-C をコードするポリヌクレオチドに関して本明細書に本質的に記載されている方法で実施される。ヒト VEGF-D 遺伝子およびタンパク質の詳細な説明は、Achen, et al., Proc. Nat'l. Acad. Sci. USA, 95(2): 548-553 (1998); 1998年2月26日公表の国際特許公表 WO 98/07832 号明細書、および Genbank 受入番号 AJ000185 号に記載されており、上記の総ての文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。プレプロ-VEGF-D についての cDNA および推定アミノ酸配列は、本明細書の配列番号 3 および 4 に記載されている。周知のように遺伝子コードが縮重しているため、多重 VEGF-D コードポリヌクレオチド配列があり、それらのいずれを本明細書に記載の方法によって用いることができるることは当然である。

【0044】

VEGF-C に関して本明細書で詳細に説明したように、VEGF-D 断片、VEGF-D 類似体、VEGF-D 対立遺伝子および種間変異体をコードするポリヌクレオチド、およびヒト VEGF-D のイン・ビボで再狭窄防止作用を有するものの使用が、総て本発明に包含されるものとして考えられる。

【0045】

更にもう一つの態様では、本発明は、血管の狭窄または再狭窄を予防するための被験哺乳類の治療法であって、血管の狭窄または再狭窄を予防するための治療を必要とする被験哺乳類に VEGF-D ポリペプチドを血管の狭窄または再狭窄を予防するのに有効な量で含んでなる組成物を投与する段階を含んでなる方法を提供する。このような方法は、VEGF-C ポリペプチドに関して本明細書に本質的に記載されている方法で実施される。

【0046】

関連態様では、本発明は、上記方法の実施のための材料および装置を提供する。

【0047】

例えば、ポリヌクレオチド、ポリペプチド、ベクター、組成物、および本発明の組成物で

10

20

30

40

50

の用途について記載したものは、それ自体が本発明の態様と考えられる。

【0048】

同様に、本発明は、血管内（血管中）ステント、バルーンカテーテル、輸液・灌流カテーテル、血管外カラー、弾性膜などの循環器障害の治療に用いられる外科装置であって、V E G F - C ポリヌクレオチド、V E G F - C ポリペプチド、V E G F - D ポリヌクレオチドおよび／またはV E G F - D ポリペプチドを含んでなる組成物をコーティングし、含浸し、これに付着し、または装置内にカプセル化することによって改良した装置も提供する。

【0049】

例えば、一つの態様では、本発明は、血管内ステントであって、このステントがV E G F - C ポリヌクレオチド、V E G F - C ポリペプチド、V E G F - D ポリヌクレオチド、およびV E G F - D ポリペプチドからなる群から選択される少なくとも一種類の再狭窄防止薬を含んでなる組成物をコーティングまたは含浸している改良を特徴とするステントを提供する。この方法で改良することができる典型的なステントは、米国特許第5,800,507号および第5,697,967号明細書(Medtronic, Inc., フィブリンおよび再狭窄の治療法を提供することができる溶出可能な薬剤を含んでなる管腔内ステントを記載)、米国特許第5,776,184号明細書(Medtronic, Inc., ポリマーおよび固形物または固形物／溶液中に治療物質をポリマーと共に含んでなる多孔性コーティングを有するステントを記載)、米国特許第5,799,384号明細書(Medtronic, Inc., 体管腔に接觸するための生物適合性ポリマー表面を有する柔軟な円筒形の金属ステントを記載)、米国特許第5,824,048号および第5,679,400号明細書、および米国特許第5,779,729号明細書に記載され、描写されており、上記特許明細書の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。一般的な血管形成法の際にこのようなステントを移植すると、通常のステントの移植よりも再狭窄が少なくなる。この意味において、ステントの生物適合性は改良されている。

【0050】

もう一つの態様では、本発明は、血管に治療薬を送達するための血管外カラーであって、このカラーがV E G F - C ポリヌクレオチド、V E G F - C ポリペプチド、V E G F - D ポリヌクレオチド、およびV E G F - D ポリペプチドからなる群から選択される少なくとも一種類の再狭窄防止薬を含んでなる組成物をコーティングまたは含浸またはカプセル化している改良を特徴とするカラーを提供する。この方法で改良される典型的なカラーは、国際特許公表WO98/20027号明細書(Eurogene, Ltd., 血管周囲をシールし、再狭窄防止医薬処方物を保持する溜めを画定するために採用された本体を含んでなるカラー)に記載され、描写されており、上記特許明細書の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。

【0051】

更にもう一つの態様では、本発明は、ステントを包むためのポリマーフィルムであって、フィルムがV E G F - C ポリヌクレオチド、V E G F - C ポリペプチド、V E G F - D ポリヌクレオチド、およびV E G F - D ポリペプチドからなる群から選択される少なくとも一種類の再狭窄防止薬を含んでなる組成物をコーティングまたは含浸している改良を特徴とするフィルムを提供する。この方法で改良される典型的なカラーは、米国特許第5,700,286号および第5,707,385号明細書(Advanced Cardiovascular Systems, Inc., 再狭窄防止治療薬をコーティングまたは含浸し、血管内ステントに結合可能な生物吸収性ポリマー材料の鞘)に記載され、描写されている。

【0052】

同様に、本発明は、本発明の方法を実施するためその使用を促進する方法で包装された本発明の化合物または組成物を含んでなるキットを含む。最も単純な態様では、このようなキットは、密封ボトルまたは器のような容器に、容器に添付されまたは包装に含まれている本発明の方法を実施するための化合物または組成物の使用を記載しているラベルと共に包装された本発明の実施に用いられることが本明細書に記載されている化合物または組成

10

20

30

40

50

物（例えば、VEGF-C または VEGF-D ポリヌクレオチドまたはポリペプチド）を含む。好ましくは、化合物または組成物は、単位投与形態で包装される。もう一つの態様では、本発明のキットは、ステント、カテーテル、血管外カラー、ポリマーフィルムなどの本発明の方法の実施に有用な物理装置と共に包装されている VEGF-C または VEGF-D ポリヌクレオチドまたはポリペプチド組成物を含む。もう一つの態様では、本発明のキットは、ヒドロゲルポリマーまたは微粒子ポリマー、または VEGF-C / VEGF-D を患者に送達するのに有用であることが本明細書に記載されている他のキャリヤーと共に包装されている VEGF-C または VEGF-D ポリヌクレオチドまたはポリペプチドを含む。

【0053】

10

本発明の他の特徴および変更は、本願明細書の内容から当業者に明らかになるであろうし、これらの総ての特徴は、本発明の態様と考えられるものである。

【0054】

同様に、本明細書に記載された本発明の特徴を、特徴の組合せが本発明の側面または態様として上記に具体的に述べられているかどうかには関係なく、本発明の側面とも考えられる追加の態様と再度組み合わせができる。また、本発明にとって決定的なものとして本明細書に記載される限定のみをそのまま記載すべきであり、本明細書に決定的なものとして記載されなかった限定を欠く本発明の変更は、本発明の側面と考えようとするものである。

【0055】

20

上記に加えて、本発明は、上記で具体的に述べた変更よりいずれにせよ範囲が狭い本発明の総ての態様を追加の側面として含む。本出願人（ら）はここに追加された請求項の全範囲を発明したが、ここに追加した請求項は、その範囲内に第三者の従来技術による研究成果を包含しようとするものではない。従って、請求項の範囲内の法定従来技術が特許庁または他の団体または個人によって出願人が考慮させられる場合には、出願人（ら）は出願可能な特許法下で補正の権利を実施し、請求項の主題を再定義し、このような請求の範囲から法定上の従来技術または明白な法定上の従来技術の変更を具体的に除外する権利を留保する。このような補正した請求の範囲によって定義される発明の変更も、本発明の側面として考えられる。

【0056】

30

発明の詳細な説明

本発明は、ヒト血管内皮増殖因子C (VEGF-C) を一般的なバルーン血管形成法の際に起こることがある外傷のような血管外傷を受けた哺乳類に投与すると、損傷した血管の再狭窄が減少したことはなることを見出したことに基づいている。再狭窄を予防するための VEGF-C トランスジーンの効果を示すイン・ビボで制御した実験を、例 1 で詳細に説明する。例 2 は、VEGF-C の再狭窄防止作用が類似の方法で投与した VEGF の再狭窄防止作用より優れていると思われるなどを示す同時行った比較研究を提供する。

【0057】

血管内皮増殖因子C (VEGF-C) と呼ばれる増殖因子、並びに VEGF-C および VEGF-C 変異体および類似体をコードする天然のヒト、非ヒト哺乳類およびトリのポリヌクレオチド配列は、1998年2月2日に出願され1998年8月6日に国際公表WO 98/33917号として公表された国際特許出願 PCT/US98/01973号明細書、Joukov et al., J. Biol. Chem., 273(12): 6599-6602 (1998); および Joukov et al., EMBO J., 16(13): 3898-3911 (1997) に詳細に記載されており、上記の総ての文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。そこで詳細に説明されているように、ヒト VEGF-C は最初は 419 アミノ酸のプレプロ-VEGF-C ポリペプチドとしてヒト細胞に産生する。ヒトプレプロ-VEGF-C についての cDNA および推定アミノ酸配列は、それぞれ配列番号 1 および 2 に記載されており、ヒト VEGF-C をコードする cDNA は、ブダペスト条約の規定に準じてアメリカン・タイプ・カルチャー・コレクション (ATCC), 10801 University Blvd., Manassa, VA 20110-2209 (USA) に寄託

40

50

されている（寄託日 1995 年 7 月 24 日、および ATCC 受入番号 97231）。他の種からの VEGF-C 配列も報告されている。例えば、Genbank 受入番号 MMU73620 (Mus musculus) および CY15837 (Coturnix coturnix) を参照されたい。上記配列の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。

【0058】

プレプロ-VEGF-C ポリペプチドは多段階で処理され、約 21 ~ 23 kD（還元条件下で SDS-PAGE によって評価）の成熟し極めて活性の高い VEGF-C ポリペプチドを産生する。このような処理としては、シグナルペプチドの開裂（配列番号 2, 残基 1 ~ 31）、カルボキシル末端ペプチドの開裂により（配列番号 2 のアミノ酸 228 ~ 419 に近似的に相当し、バルビアニ環 3 タンパク質（BR3P）配列を暗示する間隔を置いたシステイン残基のパターンを有する{Dignam et al., Gene, 88: 133-40 (1990); Paulsson et al., J. Mol. Biol., 211: 331-49 (1990)}）約 29 kD の部分処理形態を産生すること、およびアミノ末端ペプチド（配列番号 2 のアミノ酸 32 ~ 103 に近似的に相当する）の開裂（明らかに細胞外）により約 21 ~ 23 kD の完全に処理された成熟形態を産生することが挙げられる。実験的証拠は、VEGF-C の部分処理形態（例えば、29 kD 形態）は F1t4 (VEGFR-3) レセプターに結合することができ、砒素の完全処理形態では VEGFR-2 への高親和性結合だけが起こる。VEGF-C ポリペプチドは、天然では非ジスルフィド結合二量体として会合していると思われる。

【0059】

更に、配列番号 2 のアミノ酸 103 ~ 227 は、VEGF-C 機能の保持に総てが決定的という訳ではないことが示されている。配列番号 2 のアミノ酸 113 ~ 213 からなり（かつ残基 103 ~ 112 および 214 ~ 227 を欠く）ポリペプチドは、VEGF-C レセプターに結合して、刺激する能力を保持しており、約残基 131 から約残基 211 までの範囲のポリペプチドは VEGF-C 生物活性を保持することが予想される。156 位のシステイン残基は、VEGFR-2 結合能にとって重要であることが示されている。しかしながら、VEGF-C C₁₅₆ ポリペプチド（すなわち、欠失または置換によりこのシステインを欠く類似体）は、VEGFR-3 の強力な活性剤のままである。VEGF-C の再狭窄防止作用が VEGFR-3 を介して伝達されると、VEGF-C C₁₅₆ ポリペプチド（およびそれらをコードするポリヌクレオチド）の使用は、再狭窄防止効果を提供し、VEGFR-2 依存性の副作用を最小限にすることが予想される。配列番号 2 の 165 位のシステインは、いずれかのレセプターへの結合にとって本質的であり、83 または 137 位のシステインを欠く類似体は両レセプターとの結合について本来の VEGF-C と競合誌、両レセプターを刺激する。

【0060】

ヒト VEGF-C を他の種由来の VEGF-C と整列（任意の一般に認められている整列アルゴリズムを用いて行った）は、VEGF-C の生物活性を破壊することなく修飾を導入することができる（例えば、挿入、置換、および / または欠失）追加の残基を示唆する。整列した 2 個以上の種の VEGF-C ポリペプチドが異なるアミノ酸、特に異なる化学的特徴の側鎖を有する異なるアミノ酸を有する任意の位置は、同時に機能が除去されことなく修飾を受けやすい適当な位置である。ヒト、ネズミおよびウズラの VEGF-C の典型的な整列は、PCT/US98/01973 の図 5 に記載されている。

【0061】

上記の考察は別として、無数の保存的アミノ酸置換を行って特にこの置換の数が小さければ VEGF-C 生物活性を保持するポリペプチドを生じると思われる野生型 VEGF-C 配列とすることができますが理解されるであろう。「保存的アミノ酸置換」とは、アミノ酸を同様の化学的特性の側鎖を有するアミノ酸で置換することを意味する。保存的置換を行うための同様なアミノ酸としては、酸性側鎖（グルタミン酸、アスパラギン酸）、塩基性側鎖（アルギニン、リシン、ヒスチジン）、極性アミド側鎖（グルタミン、アスパラギン）、疎水性の脂肪族側鎖（ロイシン、イソロイシン、バリン、アラニン、グリシン）、芳香族側鎖（フェニルアラニン、トリプトファン、チロシン）、小さな側鎖（グリシン、

アラニン、セリン、トレオニン、メチオニン)、または脂肪族ヒドロキシル側鎖(セリン、トレオニン)を有するものが挙げられる。VEGF-C生物活性を破壊することのない1または数個の内部アミノ酸の付加または欠失も、考えられる。

【0062】

特定の理論に限定しようとするものではないが、再狭窄の予防におけるVEGF-Cの効果を支持する機構は、血管中の平滑筋の増殖を有意に同時に刺激することなく損傷した血管(および/または血管内ステント)の再内皮形成を刺激するVEGF-Cの能力に関するものと思われる。VEGF-Cは、平滑筋細胞増殖を抑制することもできる。従って、候補のVEGF-C類似体ポリペプチドを、最初に既知のVEGF-Cレセプター(VEGFR-2およびVEGFR-3)に結合し、自動ホスホリル化を刺激する目的で速やかにスクリーニングすることができる。一方または両方の既知レセプターを刺激するポリペプチドを、培養した毛細血管または動脈内皮細胞(例えば、WO98/33917号明細書に記載)に対するマイトジエンおよび/または走化性活性についてイン・ビトロで速やかに再スクリーニングする。次に、マイトジエンおよび/または走化性活性を有するポリペプチドを、再狭窄を予防する能力について本明細書に記載の方法でイン・ビボでスクリーニングする。この方法で、天然に存在するVEGF-Cタンパク質の変異体(類似体)を速やかにスクリーニングし、この変異体が本発明で使用するための「VEGF-Cポリペプチド」を構成するのに必要な生物活性を有するかどうかを決定する。

10

【0063】

血管内皮増殖因子D(VEGF-D)と呼ばれる増殖因子、並びにVEGF-Dをコードするヒト配列、およびVEGF-D変異体および類似体は、1997年8月21日に出願され、1998年2月26日に国際公表WO98/07832号として公表された国際特許出願PCT/US97/14696号明細書、およびAchen et al., Proc. Nat'l. Acad. Sci. USA, 95(2): 548-553 (1998)に詳細に記載されており、両文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。そこに詳細に説明されているように、ヒトVEGF-Dは最初はヒト細胞で354アミノ酸のプレプロ-VEGF-Dポリペプチドとして产生される。ヒトプレプロ-VEGF-DについてのcDNAおよび推定アミノ酸配列は、それぞれ配列番号3および4に記載されている。他の種由来のVEGF-D配列も報告されている。例えば、Genbank 受入番号D89628(Mus musculus)およびAF014827(Rattus norvegicus)を参照されたい。上記配列の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。

20

【0064】

プレプロ-VEGF-Dポリペプチドは21アミノ酸の推定シグナルペプチドを有し、プレプロ-VEGF-Cの処理と類似の方法で明らかにタンパク質分解的に処理される。配列番号4の残基1~92および202~354を欠く「組換え成熟した」VEGF-Dは、レセプターVEGFR-2およびVEGFR-3を活性化する能力を保持しており、非共有結合した二量体として会合していると思われる。従って、好ましいVEGF-Dポリヌクレオチドとしては、配列番号4のアミノ酸93~201をコードするヌクレオチド配列を含んでなるポリヌクレオチドが挙げられる。機能を保護する修飾をVEGF-Cポリペプチドに導入するための上記に提供したガイダンスも、機能を保護する修飾をVEGF-Dポリペプチドに導入するのに適している。

30

【0065】

本発明によって提供される再狭窄の治療的または予防的治療は、ヒトなどの被験哺乳類にVEGF-CまたはVEGF-Dポリヌクレオチドまたはポリペプチドまたはそれらの組合せを含んでなる組成物(時には、本明細書では総称的に「VEGF-CまたはVEGF-D治療薬」と呼ばれる)を投与することを含む。

40

【0066】

「投与」は、治療薬を被験哺乳類の血管に直接または間接的に導入する任意の医学的に認められた手段を用いて行うことができ、注射、経口摂取、経鼻または局所投与などが挙げられるが、これらに限定されない。好ましい態様では、VEGF-CまたはVEGF-D

50

ポリヌクレオチドまたはポリペプチド組成物を含んでなる組成物の投与は、静脈内、動脈内、または冠動脈内注射によるなど血管内で行う。

【0067】

極めて好ましい態様では、組成物は、局所的に、例えば血管形成またはバイパスの部位に投与される。例えば、投与は、治療組成物を被験哺乳類の血管、特に被験哺乳類の冠動脈にカテーテルを介して導入することを含んでなる。局所送達の典型的な材料および方法は、Lincoff et al., *Circulation*, 90: 2070-2084 (1994)、およびWilensky et al., *Trends Cardiovasc. Med.*, 3: 163-170 (1993)に概説されており、これらの文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。例えば、組成物は、冠動脈薬剤輸液についての文献に記載されているような輸液 - 灌流バルーンカテーテル（好ましくは、微孔性バルーンカテーテル）を用いて投与される。例えば、米国特許第5,713,860号明細書（輸液アレイを有する血管内カテーテル）；米国特許第5,087,244号明細書；米国特許第5,653,689号明細書；およびWolinsky et al., *J. Am. Coll. Cardiol.*, 15: 475-481 (1990)（ウォリンスキー輸液カテーテル）；およびLambert et al., *Coron. Artery Dis.*, 4: 469-475 (1993)を参照されたい。上記の総ての文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。位置指定体細胞遺伝子療法へのこれらのカテーテルの使用は、例えばMazur et al., *Texas Heart Institute Journal*, 21: 104-111 (1994)に記載されており、上記文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。

【0068】

例えば、冠動脈の単一または複数の損傷による狭心症の患者であって、冠動脈血管造影の一次所見に基づいてPTCAが処方された患者では、典型的プロトコールは大腿部法を用いる標準的臨床実施による7Fガイドカテーテルを介するPTCAを行うことを含む。PTCA単独では最適結果が得られない場合には、血管内ステントも移植する。（最適でない結果は、目視評価、およびBおよびC型切開による管腔直径の>30%の残存狭窄として定義される。）バルーン拡張の部位における動脈遺伝子導入は、血管形成の直後でステント移植の前に、輸液 - 灌流バルーンカテーテルを用いて複製欠損アデノウイルスVEGF-Cベクターで行う。カテーテルの大きさは、血管造影図から測定した動脈の直径に合うように選択され、例えば、3.0~3.5Fの直径となる。バルーンを最適圧力まで膨張させ、ウイルス力価 1.15×10^{10} で0.5ml/分の速度で10分間の輸液中に行う。

【0069】

もう一つの態様では、他のトランスジーンを導入するために文献に記載されているように、ゲルをコーティングしたカテーテルを用いる血管内投与が考えられる。例えば、米国特許第5,674,192号明細書（強靭に付着した膨張性ヒドロゲルポリマーをコーティングしたカテーテル）；Riessen et al., *Human Gene Therapy*, 4: 749-758 (1993)；およびSteg et al., *Circulation*, 96: 408-411 (1997)および90: 1648-1656 (1994)を参照されたい。これらの総ての文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。図1に示されるように、膨張性バルーン12が遠位末端に取り付けられているカテーテル10が提供される。バルーンは、治療用のVEGF-CまたはVEGF-D治療薬を含んでなる溶液を吸収することができる膨潤性のヒドロゲルポリマーコーティング14を含む。簡単に説明すれば、DNAの溶液（例えば、VEGF-Cポリヌクレオチド）をヒドロゲルポリマーをコーティングした膨張した血管形成功能カテーテルバルーンの表面にエクス・ビボで1回以上塗布する（例えば、ヒドロプラスを有するスライダー（Slider with Hydroplus），Mansfield Boston Scientific Corp., Watertown, MA）。ヒドロプラスコーティングは、親水性のポリアクリル酸ポリマーであって、バルーンに架橋して、バルーンにしっかりと付着した高分子量ヒドロゲルを形成する。DNAで被覆されたヒドロゲルを乾燥した後、バルーンをすばませる。血管形成法の際にバルーンを血管内で再膨張させることにより、DNAが血管壁に導入される。従って、また図1について説明すれば、取り付けてコーティングしたバルーンを、保護鞘20によって被覆して、閉塞部位22に置かれる前にコーティング

10

20

30

40

50

ングしたバルーンが血液に露出するのを最小限にしながら、血管18の管腔16に挿入する。装置が治療領域に配置されたならば、保護鞘を引き戻し、またはカテーテルを前方に移動させてバルーンを露出させ、これを膨張させてバルーン(従って、コーティング)を血管壁に与圧して、圧縮したスポンジから液体を絞り出しましたは湿潤塗料を接触によって表面に導入するとの類似の方法でVEGF-CまたはVEGF-D治療薬を組織に導入する。

【0070】

更にもう一つの態様では、バルーン血管形成カテーテルまたはステントに配置されたまたはこれと一体的な膨張性の弾性膜、フィルムまたは同様の構造を用いて、VEGF-CまたはVEGF-D治療薬を送達する。例えば、米国特許第5,707,385号、第5,697,967号、第5,700,286号、第5,800,507号および第5,776,184号明細書を参照されたい。上記の総ての文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。図2A～2Bに示されるように、弾性膜材料(図2A)の単層30または多層30,32シートを、シート(同士)の対向末端をまとめて、例えば重複または接触関係で接着することによって管状構造34(図2B)に成形する。この方法で、弾性材料をカテーテルバルーンまたはステントの回りに巻き付けることができる。治療用のVEGF-CまたはVEGF-D組成物を、射出成形、コーティング、拡散、および吸収法などの任意の適当な手段を用いて膜と合わせる。図に示した多層態様では、二層の両端を結合させて、液密シールを形成することができる。好ましい態様では、材料の一方の層を最初に材料を伸張し、複数の微小孔またはスリット36を導入することによって加工する。層同士が互いに結合した後、シートを伸張し、孔またはスリットの一方を介して治療用VEGF-C/D組成物を注入して層の間に空隙を満たすことができる。次に、シートを弛緩させ、孔を閉じて、シートを再度伸張するときまで層の間に治療組成物をシールする。これは、例えばシートによって被覆された血管内ステントまたはバルーンが狭窄した血管の管腔内で膨張するときに起こる。膨張ステントまたはバルーンは、管状シートカバーの内部表面38に対して放射状外側にプレスし、シートを伸張し、孔を開き、治療薬を血管壁に送達する。

【0071】

もう一つの態様では、VEGF-CまたはVEGF-D治療薬を含む組成物を、例えば血管の一部を取り囲みまたはカプセル化する装置を用いて血管外に投与する。例えば、(バイパス処置の際などに)動脈の外側に置き、プラスミドまたはリポソームベクターを介して動脈壁にトランスジーンを送達するカラーが記載されている国際特許公表WO98/20027号明細書(この特許明細書の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される)を参照されたい。図3Aおよび3Bに示されるように、血管外カラーは、例えば生物分解性または生物適合性材料で形成された壁44によって画定されるボイドスペース42を含む。カラーは、カラーの外側末端で血管48の外壁46に触れている。血液52は、血管の管腔を流れる。柔軟なカラーの縦方向スリット54により、カラーを変形させ、血管の回りに置き、トロンビン接着剤のような通常の組織接着剤を用いてシールする。

【0072】

更にもう一つの態様では、内皮細胞または内皮前駆細胞をVEGF-CまたはVEGF-Dトランスジーンでエクス・ビボでトランスフェクションし、トランスフェクションした細胞を被験哺乳類に投与する。血管移植片に遺伝子修飾した内皮細胞を播種するための典型的手順は、米国特許第5,785,965号明細書に記載されており、上記特許明細書の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。

【0073】

被験哺乳類が血管移植片を受け入れているときには、VEGF-CまたはVEGF-D治療組成物を単離した血管断片に直接適用した後、イン・ビボで移植することができる。

【0074】

もう一つの態様では、投与は、被験哺乳類に血管内ステントを移植することを含んでなり、ステントは治療用VEGF-C/D遺伝子/タンパク質組成物でコーティングまたは含浸されている。薬剤をコーティングしたまたは薬剤を含浸したステントを構築するための

10

20

30

40

50

典型的な材料は上記文献に記載されており、Lincoff et al., *Circulation*, 90: 2070-2084 (1994)に概説されている。図4 A および 4 B に示されるように、ステントを形成するための金属またはポリマーワイヤー70を、VEGF-C または VEGF-D 治療組成物を含浸させた（または浸漬し、あるいは使用直前に容易にコーティングすることができる）多孔性の生物適合性ポリマーまたはゲルのような組成物でコーティングする。ワイヤーをコイルに巻き取り、織り、あるいは血管内血管形成カテーテル法のような通常の材料および手法を用いて血管の管腔に移植するのに適するステント74に成形する。この方法で改良することができる典型的ステントは、米国特許第5,800,507号および第5,697,967号明細書(Medtronic, Inc., フィブリンおよび再狭窄の治療法を提供することができる溶出可能な薬剤を含んでなる管腔内ステントを記載)、米国特許第5,776,184号明細書(Medtronic, Inc., ポリマーおよび固体物または固体物/溶液中に治療物質をポリマーと共に含んでなる多孔性コーティングを有するステントを記載)、米国特許第5,799,384号明細書(Medtronic, Inc., 体管腔に接触するための生物適合性ポリマー表面を有する柔軟な円筒形の金属ステントを記載)、米国特許第5,824,048号および第5,679,400号明細書、および米国特許第5,779,729号明細書に記載され、描写されており、上記特許明細書の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。一般的な血管形成法の際にこのようなステントを移植すると、通常のステントの移植よりも再狭窄が少なくなる。この意味において、ステントの生物適合性は改良されている。

【0075】

もう一つの好ましい態様では、組成物は、PLGA、非分解性ポリマー、または生物学的ポリマー（例えば、澱粉）のような生物分解性ポリマーからなる微粒子であって、VEGF-C または VEGF-C ポリペプチド/ポリヌクレオチドでカプセル化または含浸されているものを含んでなる。このような粒子は、輸液血管形成カテーテルなどを用いて血管壁に送達される。局部的に持続した薬剤送達を行うための他の手法は、Wilensky et al., *Trends Cardiovasc. Med.*, 3: 163-170 (1993)に概説されており、上記文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。

【0076】

血管形成またはバイパス処置の後に1回以上の静脈内注射による投与も考えられる。処置の部位へのVEGF-C または VEGF-D ポリペプチドの局在化は、増殖する内皮細胞上でのVEGF-C レセプターの発現によって起こる。局在化は、（例えば、Shih et al., *Proc. Nat'l. Acad. Sci. USA*, 87: 1436-1440 (1990)に記載のアボリポタンパク質B-100オリゴペプチドに融合した）融合ポリペプチドとして VEGF-C または VEGF-D を組み換え発現することによっても促進される。

【0077】

血管の狭窄または再狭窄を予防するための VEGF-C ポリヌクレオチド、VEGF-C ポリペプチド、VEGF-D ポリヌクレオチド、および VEGF-D ポリペプチドの医薬効果を、イン・ビボで、例えば幾つかは余弦的なものである下記の例に記載されるような手順を用いて示す。例により、本発明の説明が更に容易になるが、本発明の範囲を制限しようとするものではない。

【0078】

例 1

再狭窄を予防するためのアデノウイルス依存性 VEGF-C 遺伝子導入の使用
ウサギの再狭窄モデルで行った下記の実験は、血管形成後の再狭窄を予防するためのアデノウイルス依存性の血管内 VEGF-C 遺伝子導入の効果を示す。

【0079】

A. 材料および方法

1. アデノウイルス構築物

サイトメガロウイルス(CMV)プロモーターおよびヒト成長ホルモンポリアデニル化シグナル配列に作動可能に結合した完全なヒトプレプロ-VEGF-C オープンリーディン

10

20

30

40

50

グフレームをコードする cDNA を含むアデノウイルスプラスミドは、下記の方法で構築した。CMV プロモーター配列を含んでなる DNA 断片を、p cDNA 3.1 + ベクター (Invitrogen) を Sal I で消化し、5' オーバーハングにクレノウ酵素を充填することによって調製した。CMV プロモーター (ヌクレオチド 5431 ~ 911) を、ベクターから Hind III で摘出して、単離した。配列番号 1 に記載した 1997 bp の配列 (並びに追加の非コードおよびポリリンカー配列の 50 塩基未満) を含む完全長のヒト VEGF - C cDNA を、[WO 98 / 33917 号明細書に記載の] VEGF - C pREP7 発現ベクターから Hind III および Xho I で摘出し、単離した。ヒト成長ホルモンポリアデニル化シグナル (約 860 bp) を、MHC ベクターから Sal I および Bam HI で摘出した。CMV プロモーター、VEGF - C cDNA および hGH ポリアデニル化シグナル断片を同時に Bam HI および Eco RV で消化した pCR II ベクターに連結した。連結した CMV プロモーターおよび VEGF - C cDNA は、配列番号 17 に示されている。生成する構築物を Bgl II で開き、Bam HI で部分消化した。完全転写単位を Bgl II で開いた pAdBgl II ベクターに連結した。次に、この構築物 [pAdBgl II VEGF - C と命名] を用いて、標準的相同組換え法を用いて CMV - VEGF - C - hGH 転写単位を含む組換えアデノウイルスを作成した [Barr et al., Gene Ther., 1: 51-58 (1994)]。組換え欠損 E1 ~ E3 欠失アデノウイルスを 293 個の細胞で産生させ、文献で知られている手法を用いる超遠心によって濃縮した [例えば、Barr et al. (1994) を参照されたい]。同じプロモーターに操作可能に連結した lacZ 遺伝子を含んでなるコントロールプラスミドも用いた [Laitinen M. et al., Hum. Gene Ther., 9: 1481-1486 (1998)]。lacZ アデノウイルスは核標的設定シグナルを有し、核に対する - ガラクトシダーゼ発現を指定した。複製欠損 E1 ~ E3 欠失アデノウイルスを 293 個の細胞で産生させ (Barr et al., 1994)。アデノウイルス製剤をヘルパーウイルスおよび細菌学的汚染物が含まれないことについて分析した。

【0080】

2. 動物モデル

ニュージーランドシロウサギを用いて、遺伝子導入研究を行った。第一群のウサギには 0.25% コレスステロール食を 2 週間与えた後、大動脈のバルーン露出を行った後、3 日後にアデノウイルス依存性遺伝子導入を行った。第二群のウサギには、遺伝子導入だけを行った。動物を、遺伝子導入から 2 または 4 週後に屠殺した。両研究群における実験 (VEGF - C) およびコントロール (lacZ) 動物の数は 6 であった。

【0081】

第一群のウサギでは、4.0 F 動脈塞栓摘出カテーテル (Sorin Biomedical, Irvine, CA) を用いて大動脈弓の先端から初めて大動脈全体を露出させた。カテーテルを右腸骨動脈を介して大動脈弓まで導入し、膨張させ、大動脈を二回露出させた。

【0082】

3. 遺伝子導入

遺伝子導入は、3.0 F チャンネルバルーン局所薬送達カテーテル (Boston Scientific Corp., Maple Grove, MA) を用いて行った。X 線透視装置制御を用いて、バルーンカテーテルを左腎動脈尾部の側枝のない部分に右頸動脈中の 5 F 経皮インデューサー鞘 (Arrow International, Reading, PA) を介して配置し、コントラスト媒体および食塩水の混合物で 6 ATM まで膨張させた。バルーンカテーテルの解剖学上の位置を、左腎動脈の大動脈開口からの距離を測定することによって決定した。1.15 × 10¹⁰ プラーク形成単位 (pfu) のウイルス力値をそれぞれの動物に最終容積 2 ml (0.9% NaCl) で投与し、遺伝子導入を 6 ATM で 10 分間 (0.2 ml / 分) 行った。第二の研究群では、動物に遺伝子導入のみを行い、遺伝子導入から 2 週後に屠殺した。それぞれの研究群 (0.9% NaCl のみ、lacZ 遺伝子導入、および VEGF - C 遺伝子導入) における動物数は 3 であった。総ての検討は、フィンランドのクオピオ大学の実験動物委員会によって承認された。

【0083】

10

20

30

40

50

4. 組織学

屠殺の3時間前に、動物にBrdU 50mgを40%エタノールに溶解したものを静脈内投与した。屠殺後、遺伝子導入を行った大動脈切片を取り出し、食塩水で静かに洗い流し、5個の均等な切片に分けた。基部切片を液体窒素で瞬間凍結し、-70で保管した。次の切片を、4%パラホルムアルデヒド/15%スクロース(pH7.4)中で4時間浸漬固定し、15%スクロース(pH7.4)で一晩洗浄し、パラフィンに埋設した。中膜切片は、4%パラホルムアルデヒド/リン酸緩衝食塩水(PBS)(pH7.4)中で10分間浸漬固定し、PBSで2時間洗浄し、OCT化合物(Miles)に埋設し、-70で保管した。第四の切片は70%エタノールで浸漬固定し、パラフィンに埋設した。先端切片は、X-GAL染色と中で+37で16時間-ガラクトシダーゼ活性について直接染色し、4%パラホルムアルデヒド/15%スクロース(pH7.4)中で4時間浸漬固定し、15%スクロース(pH7.4)で一晩洗浄し、パラフィンに埋設した。パラフィン切片は、平滑筋細胞(SMC)、マクロファージおよび内皮の免疫細胞化学的検出に用いた。遺伝子導入効率を、OCT埋設組織のX-GAL染色を用いて評価した。BrdU陽性細胞を、製造業者の指示に準じて検出した。形態計測は、イメージ分析ソフトウェアを用い、ヘマトキシリン-エオシン染色パラフィン切片を用いて行った。測定は、切片の起源について知識のない複数の切片から2名の観察者が独立して行った。内膜/中膜(I/M)比を、内膜の肥厚化のパラメーターとして用いた。

【0084】

B. 結果

バルーンによって露出したマウスの組織学的分析により、lacZをトランスフェクションしたコントロール群のI/M比は、遺伝子導入の2週間後では0.61であり、これはVEGF-Cをトランスフェクションした群(I/M比は0.40)とは統計的に有意さがあることを表していた。VEGF-C群が小さめのI/M比を有する傾向は、遺伝子導入から4週後の時点でも持続した。

【0085】

(内皮露出なしで)血管壁への遺伝子導入を施しただけのウサギの第二の群では、lacZ群のI/M比は0.3であり、一方VEGF-C群については0.15であった。この差も、VEGF-C群での新内膜形成の統計的に有意な($p < 0.05$)阻害を表していた。

【0086】

BrdU標識により、VEGF-Cトランスフェクション対コントロール(lacZ)動物における平滑筋細胞増殖の分析を行うことができる。SMC増殖は、VEGF-Cトランスフェクション個体では減少することが予想される。

【0087】

上記データは、大動脈露出およびバルーン露出なしでの遺伝子導入カテーテルによって引起された血管壁損傷から2週後の時点では、VEGF-C遺伝子導入により内膜肥厚化が有意に減少することを示している。これらのデータは、血管形成後再狭窄の予防を目的とするVEGF-C遺伝子の治療上の有用性を示している。

【0088】

例2

VEGF-Cの再狭窄作用がVEGFの作用より優れていることを示す比較例

下記の実験は、血管形成後再狭窄の予防を目的とするアデノウイルス依存性血管内VEGFおよびVEGF-C遺伝子導入の効果を示しており、VEGF-CがVEGFと比較して優れた治療効果を提供すると思われることを示している。

A. 材料および方法

1. アデノウイルス構築物

VEGF(ネズミVEGF-A₁₆₄;配列番号18)アデノウイルスをVEGF-C構築物と同じプロモーターを用い、例1に記載したのと同様な手順に従って構築した。VEGF-A₁₆₄アデノウイルス構築物を293T細胞で産生し、本質的に例1に記載の方

10

20

30

40

50

法で濃縮し、ヘルパーウイルス、リポ多糖類および細菌性混入物が含まれていないことを分析した。

【0089】

2. 動物モデル

63匹のニュージーランドシロウサギを、0.25%コレステロール食餌を2週間与え、遺伝子導入の前に大動脈のバルーン露出を行った第一群と、遺伝子導入のみを行った第二群の二つの主要な群に分割した。遺伝子導入は、第一群のウサギでは露出の3日後に行い、遺伝子導入の2または4週間後に屠殺した。両時点におけるそれぞれの検討群(1aCZ、VEGFおよびVEGF-C)のウサギの数は6匹であった。第二の検討群では、ウサギは遺伝子導入のみを行い、コレステロール食餌またはバルーン露出は行わず、遺伝子導入の2または4週間後に屠殺した。それぞれの検討群(0.9%食塩水、1aCZ、VEGFおよびVEGF-C)のウサギの数は3匹であった。

【0090】

3. 遺伝子導入

遺伝子導入は、例1に記載の手順に従って行った。

【0091】

4. 組織学

組織学は、本質的に例1に記載の方法で、SMCはHHF35(DAKO, 1:50希釈)を用いて検出し、マクロファージはRAM-11(DAKO, 1:50希釈)を用いて検出し、内皮はCD31(DAKO, 1:50希釈)を用いて検出し、T細胞はMCA805(DAKO, 1:100希釈)を用いて検出した改質を加えて行った。免疫染色のコントロールは、クラスおよび種にマッチした免疫グロブリンを有するインキュベーション、および一次抗体を省いたインキュベーションを含んだ。形態計測およびイメージ分析は、Image-Pro Plus(商品名)ソフトウェアおよびOlympus AX70顕微鏡(Olympus Optical, 日本)を用いて行った。統計分析は、ANOVAおよび改良t検定を用いて行った。P<0.05は、統計的に有意であると考えた。

【0092】

B. 結果

バルーン露出したウサギの組織学的分析では、内膜肥厚化およびSMC増殖を示している。遺伝子導入の2週間後には、1aCZコントロール群はI/M比が最高となり(0.57±0.04)、一方VEGF-C(0.38±0.02)およびVEGF(0.49±0.17)群では内膜肥厚化の減少を示した。1aCZおよびVEGF-C群のI/M比の差は有意であったが(P<0.05)、1aCZとVEGF群の間の差は2週間後の時点では統計上有意ではなかった。VEGFおよびVEGF-Cのいずれの群でもI/M比がより小さいという傾向は、4週間後の時点では継続しており、I/M比は1aCZ、VEGF-C、およびVEGFについてそれぞれ0.73±0.16、0.44±0.14および0.63±0.21であった。トランスフェクションした動脈のヘマトキシリン-エオシンおよび免疫染色は、総ての動脈における内膜の肥厚化は大部分がSMCからなることを示している。

【0093】

アデノウイルスベクターを用いることによって、免疫および炎症性応答を生じができるが、一部は高力価アデノウイルスがNF-Bの発現を誘発し、CTL応答を活性化するからである。しかしながら、マクロファージおよびT細胞免疫染色によって判定したところ、炎症または泡沫細胞の蓄積の徴候は全く検出されなかった。また、ヒトの臨床的遺伝子療法級のウイルスをトランスフェクションした動脈で短い露出時間で用い、これによりこの反応では過酷な炎症反応がみられないことを説明することもできる。

【0094】

増殖細胞の割合を、BrdU標識を用いて分析した。VEGF-C群は増殖速度は低くなりがちであったが、有意差は見られず、VEGF-Cを形質導入した動脈はいずれの時点でもI/M比が小さいという観察と一致した。バルーン露出から2週間後には、増殖細胞

10

20

30

40

50

の割合は、1a c Z、VEGF、およびVEGF-C群についてそれぞれ 1.8 ± 0.4 、 2.2 ± 0.7 、および 1.2 ± 0.0 であり、4週間後には、増殖細胞の割合は、1a c Z、VEGF、およびVEGF-C群についてそれぞれ 0.3 ± 0.1 、 1.2 ± 0.5 、および 0.3 ± 0.1 であった。内皮再成長を、組織学的切片から完全な内皮の長さを測定することによって分析した。これらの検討群の間には、有意差は見られなかった。

【0095】

アデノウイルスが血管壁および新内膜形成に損傷を引起す可能性を、ウサギの完全な腹部大動脈にバルーン-露出なしで高力価アデノウイルス遺伝子導入を行うことによって試験した。コントロールウサギには、同じ方法で 0.9% 食塩水を投与した。処置の後に、遺伝子導入カテーテルの設置により、幾らかの内部弹性管腔の損傷と新内膜形成の中程度の誘導を引起した。2週間後の時点では、1a c Z群でのI/M比は 0.24 ± 0.06 であり、コントロール群では 0.28 ± 0.05 であり、VEGF-C群では 0.18 ± 0.07 であり、VEGF群では 0.15 ± 0.03 であった。4週間後の時点では、1a c Z群はI/M比が 0.22 ± 0.13 であり、VEGF-C群は 0.13 ± 0.03 であり、VEGF群は 0.23 ± 0.11 であった。

【0096】

この検討は、バルーン損傷後の血管壁に対する血管内アデノウイルス依存性VEGF-C遺伝子導入の治療効果が有益であることを示し、また新内膜形成の予防のためのVEGF-CおよびVEGFアデノウイルス依存性遺伝子導入を比較する。VEGF-CおよびVEGFの異なるレセプター結合プロフィールは血管壁において異なる生物学的效果を生じる可能性があるが、いずれのVEGFも遺伝子導入から2週間後には内膜肥厚化が減少した。従って、いずれのVEGFも虚血性のアテローム性疾患の血管遺伝子療法の潜在的な候補である。しかしながら、この実験によれば、このモデル系ではVEGF-CはVEGFより効果的に再狭窄を防止すると思われる。VEGFと比較して、再狭窄を防止するVEGF-Cの優れた能力は、VEGF-CおよびVEGF-DのレセプターではあるがVEGFのレセプターではないVEGFR-3の発現または活性によると思われた。あるいは、明らかな優越性は、VEGFR-1を介して伝達される再狭窄促進作用によるか、または血管平滑筋細胞で発現するといわれている共通レセプターVEGFR-2を介して伝達される示差リガンド効果(VEGF-C対VEGF)によることができる[Grosskreutz et al., Microvasc. Res., 58(2): 128-136(1999年9月)を参照されたい]。

【0097】

例3

大動脈壁におけるトランスフェクションしたVEGFの発現

例2に記載した同じ実験動物からの大動脈切片を用いて、1a c Z、VEGF-C、およびVEGF(ネズミVEGF-A₁₆₄)のmRNA発現を、遺伝子導入後の大動脈組織において分析した。総RNAを、Triazol Reagent(Gibco-BRL)を用いてトランスフェクションした大動脈切片から抽出し、RNA 2 μgを用いてcDNAを合成した。1a c Z、VEGF-CおよびVEGFについてのプライマーをデザインして、CMVプロモーター由来の5'プライマーとコード領域由来の3'プライマーを選択することによって内在性および形質導入遺伝子を識別した。

【0098】

1a c Z增幅については、プライマーは、5'プライマーが5'-TTGGAGGCCTAGGCTTTGC-3'(配列番号5)であり、3'プライマーが5'-ATACTGTCGTCGCCCCCTCA-3'(配列番号6)であった。第一のPCRサイクルは96℃で4分間の初期インキュベーションに続いて80℃で3分間のインキュベーションであり、この間にDNAポリメラーゼを加えた。この後に30サイクルを行い、それぞれ94℃で45秒間、58℃で45秒間、および72℃で50秒間からなり、続いて72℃で5分間の最終伸張を行った。第一のPCR生成物5 μlは、5'プライマー5'-GGTAGAAGACCCCAAGGACTT-3'(配列番号7)および3'プライマー5'-CGCCATTGCCATTCAAG-3'(配列番号8)と共に第二のPCRについて用いた。第一のP

10

20

30

40

50

C R サイクルは、 9 6 で 3 分間の初期インキュベーションに続いて 8 0 で 3 分間のインキュベーションであり、これに続いて 3 2 サイクル行い、それぞれ 9 4 で 6 0 秒間、 5 8 で 1 5 秒間、および 7 2 で 9 0 秒間からなり、続いて 7 2 で 5 分間の最終伸張を行った。

【 0 0 9 9 】

V E G F - C 増殖については、プライマーは、 5 プライマーが 5'-CTGCTTACTGGCTTATCG-3' (配列番号 9) であり、 3 プライマーが 5'-CCTGTTCTCTGTTATGTTGC-3' (配列番号 10 1 0) である。第一の P C R サイクルは 9 6 で 4 分間の初期インキュベーションに続いて 8 0 で 3 分間のインキュベーションであり、この間に D N A ポリメラーゼを加えた。この後に 3 9 サイクル行い、それぞれ 9 4 で 3 0 秒間、 5 6 で 4 0 秒間、および 7 2 で 9 0 秒間からなり、続いて 7 2 で 5 分間の最終伸張を行った。第一の P C R 生成物 5 μ l は、 5 プライマー 5'-TCTCCAAAAAGCTACACCG-3' (配列番号 1 1) および 3 プライマー 5'-CAAGTGCATGGTGGAAAGG-3' (配列番号 1 2) と共に第二の P C R について用いた。第一の P C R サイクルは、 9 6 で 3 分間の初期インキュベーションに続いて 8 0 で 3 分間のインキュベーションであり、これに続いて 3 9 サイクル行い、それぞれ 9 4 で 6 0 秒間、 5 7 で 3 0 秒間、および 7 2 で 9 0 秒間からなり、続いて 7 2 で 5 分間の最終伸張を行った。

【 0 1 0 0 】

V E G F 増幅については、プライマーは、 5 プライマーが 5'-TCGATCCATGAACCTTCTGC-3' (配列番号 1 3) であり、 3 プライマーが 5'-TTCGTTTAACCTCAAGCTGCC-3' (配列番号 1 4) である。第一の P C R サイクルは 9 6 で 4 分間の初期インキュベーションに続いて 8 0 で 3 分間のインキュベーションであり、この後に 3 9 サイクル行い、それぞれ 9 4 で 3 0 秒間、 5 3 で 4 0 秒間、および 7 2 で 9 0 秒間からなり、続いて 7 2 で 5 分間の最終伸張を行った。第一の P C R 生成物 5 μ l は、 5 プライマー 5'-GACCCTGGCTTTACTGCTG-3' (配列番号 1 5) および 3 プライマー 5'-GGAACATTTACACGTCTGCG-3' (配列番号 1 6) と共に第二の P C R について用いた。第一の P C R サイクルは、 9 6 で 3 分間の初期インキュベーションに続いて 8 0 で 3 分間のインキュベーションであり、これに続いて 3 9 サイクル行い、それぞれ 9 4 で 6 0 秒間、 5 4 で 3 0 秒間、および 7 2 で 9 0 秒間からなり、続いて 7 2 で 5 分間の最終伸張を行った。

【 0 1 0 1 】

遺伝子導入から 4 週間後までに、 1 a c Z 、 V E G F - C および V E G F の m R N A を大動脈壁組織に検出した。

【 0 1 0 2 】

遺伝子導入効率を、 O C T 埋設組織切片で - ガラクトシダーゼ活性についての X - G a 1 染色によって分析した 1 a c Z 発現を検討することによって評価した。トランスフェクション効率は、血管内カテーテル依存性遺伝子導入からそれぞれ 2 および 4 週間後では、 1 . 1 % \pm 0 . 5 および 0 . 3 % \pm 0 . 1 であった。

【 0 1 0 3 】

例 4

大動脈壁における V E G F レセプターの発現

例 2 に記載の実験動物を用いて、大動脈壁での V E G F R - 1 、 V E G F R - 2 および V E G F R - 3 の発現を免疫染色およびインシテューハイブリダイゼーションによって分析した。免疫組織化学は、 V E G F R - 1 の検出にはクローン s c - 3 1 6 (Santa Cruz Biotechnology, 1 : 5 0 希釈) 、 V E G F R - 2 の検出にはクローン s c - 6 2 5 1 (Santa Cruz Biotechnology, 1 : 5 0 希釈) 、および V E G F R - 3 の検出にはクローン s c - 6 3 7 (Santa Cruz Biotechnology, 1 : 3 0 0 希釈) を用いて行った。免疫染色のコントロールは、クラスおよび種にマッチした免疫グロブリンを有するインキュベーション、および一次抗体を省いたインキュベーションを含んだ。 V E G F レセプター m R N A のインシテューハイブリダイゼーションは、 ^{33}P - U T P を標識したリボプローブを用いて行った。総てのレセプターの発現は、内皮に局在化した。 V E G F R - 2 は、新内膜 S 50

M C でも発現した。

【 0 1 0 4 】

例 5

再狭窄の予防のための露出 V E G F - C トランスジーン療法の使用

下記の改質を行ったことを除き、例 1 および 2 に記載の手順を繰返した。V E G F - C トランスジーンの送達のためにアデノウイルスベクターを用いる代わりに、哺乳類発現ベクターを構築して、(露出プラスミド D N A の)直接遺伝子導入を行う。V E G F - C コード配列は C M V プロモーターのような適当なプロモーターに作動可能に結合し、好ましくはヒト成長ホルモンポリアデニル化配列のような適当なポリアデニル化配列に結合した。典型的な V E G F - C ベクターは、他の増殖因子のベクターを含まない遺伝子導入を行うために文献に記載されたベクターから、V E G F コード配列の代わりに V E G F - C コード配列を用いることによって設計することができる。[例えば、Isner et al., Circulation, 91: 2687-2692 (1995); および Isner et al., Human Gene Therapy, 7: 989-1011 (1996) を参照されたい。上記文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。] ベクター。l a c Z 遺伝子を含んでなる同様な構築物は、コントロールとして用いられる。

【 0 1 0 5 】

ヒドロゲルでコーティングしたバルーンカテーテル(Boston Scientific)を、Asahara et al., Circulation, 94: 3291-3302 (1996年12月15日)に本質的に記載された V E G F - C トランスジーンの送達に用い、上記文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。簡単に説明すれば、血管形成バルーンは、テフロン保護鞘(Boston Scientific)中を完全にすばめたバルーンを前進させることによってエクス・ビボで調製する。バルーンを膨張させ、通常のピペットを用いて、トランスジーン構築物(例えば、50 ~ 5000 μ gのトランスジーン D N A の食塩溶液)を膨張させたバルーンの外部表面をコーティングしているヒドロゲルポリマーに塗布する。トランスジーン溶液が乾燥した後、バルーンをすばませて保護鞘中に引き入れ、バルーンが標的動脈中で適正に配置されるまでバルーン表面を通る血流を最小限にする。

【 0 1 0 6 】

内膜 / 中膜 (I / M) 比を、内膜の肥厚化のパラメーターとして用いた。V E G F - C トランスジーンをコーティングしたバルーンカテーテルで処理した動物での I / M 比の減少は、治療効果を示していると考えられる。例 2 に記載しているように、V E G F - C 遺伝子導入の治療効果の V E G F 遺伝子導入のような他の治療法との比較を、平行して行うこともできる。

【 0 1 0 7 】

例 6

ステントを用いる血管形成の後の再狭窄を予防するための V E G F - C 遺伝子療法の使用初期のバルーン血管形成と同時に通常の手順を用いて冠動脈ステントの移植を行うことの改質を除き、上記の例に記載した手順を繰返す。V E G F - C トランスジーンを、上記の例に本質的に記載したステントの移植と同時にまたは直前または直後に送達する。Van Beile et al., J. Am. Coll. Cardiol., 29: 1371-1379 (1997年5月)に記載されているように、(ステントなしの血管形成と比較して)トランスジーンの量を増加(例えば、2倍 ~ 10倍)させ、トランスフェクション時間を増加させることが望ましいことがある。上記の文献の内容は、その開示の一部として本明細書に引用される。V E G F - C 遺伝子で処理した動物体マーカー遺伝子で処理したコントロール動物での新内膜肥厚化の減少および / または血栓性閉塞の減少は、V E G F - C 遺伝子療法の効果を示しているものと考えられる。

【 0 1 0 8 】

例 7

血管狭窄を減少させるための血管外カラーの使用

国際特許公表 W O 98 / 20027 号明細書に記載のような不活性シリコーンカラーを、

ニュージーランドシロウサギの頸動脈周囲に外科的に移植するカラーは内膜肥厚化を誘発する刺激物質として作用し、VEGF-Cトランスジーンまたはタンパク質医薬処方物の局部送達に適する溜めを含む。例1に記載したVEGF-Cアデノウイルス構築物または混合物と構築物を用いる遺伝子導入を、5日後に $10^8 \sim 10^{11}$ pfuをカラーに注入することによって開始する。動物を14または28日後に屠殺し、組織学的検討を例1に記載したのと同様にして行う。内膜/中膜厚み比[Yla-Herttula et al., Arteriosclerosis, 6: 230-236 (1986)]を、狭窄の指標として用いる。lacZコントロールウサギと比較して、VEGF-CトランスフェクションウサギでのI/M比が減少することは、動脈狭窄の予防のためのVEGF-C遺伝子導入の治療効果を示している。

【0109】

10

例8

再狭窄を減少させまたは防止するためのVEGF-Cポリペプチドの使用

試験動物をVEGF-CトランスジーンまたはlacZコントロールを含むアデノウイルスで処理する代わりに、動物に薬学上許容可能なキャリヤー中にVEGF-Cポリペプチド（例えば、血清アルブミンを含む等張食塩水）またはコントロールとしてキャリヤー溶液のみを投与することを除き、例1に記載の手順を繰返す。試験動物には、例えば例1に記載されているように、動脈内輸液によりVEGF-Cポリペプチド10、100、250、500、1000、または5000 μ gを投与する。第二群の動物には、7日後にVEGF-Cポリペプチドの注射を更に行う。動物を、例1に記載した方法で屠殺し、組織学的検討を行った。コントロール動物と比較して、VEGF-Cを投与した動物でI/M比が減少することは、VEGF-Cポリペプチド治療の治療効果を示している。様々な持続放出VEGF-C処方物および上記の材料を用いて実験を繰返すと、VEGF-Cポリペプチドの治療効果が更に向かうことが予想される。更に、VEGF-Cタンパク質（標的血管に即時に治療を行うための）VEGF-Cタンパク質と（数日または週間持続治療を行うための）VEGF-Cトランスジーンとの同時投与を含んでなる治療法は、本発明の一変法と特に考えられている。

20

【0110】

例9

VEGF-Dの狭窄防止/再狭窄防止活性

上記の例に記載された手順を、VEGF-Cポリヌクレオチド/ポリペプチドの代わりにVEGF-DポリヌクレオチドまたはVEGF-Dを含んでなる組成物を用いて繰返し、血管の狭窄または再狭窄を予防するためのVEGF-Dの能力を示す。

30

【0111】

本発明を特定の態様について説明してきたが、変更および改質は当業者に起こるであろうし、これらは総て本発明の側面としようとするものであることが理解される。従って、請求の範囲に見られる制限のみが、本発明に適用されるべきである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 保護鞘を含む薬剤送達バルーンカテーテルを挿入した血管の断面であり、保護鞘は挿入および位置設定の際にバルーンを被覆する働きをする。

【図2A】 両端を互いに合わせる前の間隔を置いて離れている二層を有する膨張性膜の斜視図。

40

【図2B】 丸めてチューブ状にし、対向端を隣接させた図2Aの膜の斜視図。

【図3】 血管の一部を取り巻いている血管外カラーの斜視（図3A）および縦断面（図3B）略図。

【図4A】 治療組成物を含む（例えば、含浸させる）ことができるポリマーまたはゲルをコーティングしたワイヤーの断面図。

【図4B】 図4Aのワイヤーから形成された血管内ステントの斜視図。

【符号の説明】

10 カテーテル

12 膨張性バルーン

50

14	膨潤性ヒドロゲルポリマーコーティング	
16	管腔	
18	血管	
20	保護鞘	
22	閉塞部位	
30, 32	弾性膜材料の層	
34	管状構造	
36	孔またはスリット	
38	内部表面	
40	血管外カラー	10
42	ボイドスペース	
44	壁	
46	外壁	
48	血管	
50	カラーの外部先端	
52	血液	
54	縦方向スリット	
70	ワイヤー	
72	組成物	
74	ステント	20
【配列表】		

SEQUENCE LISTING

<110> Ludwig Institute for Cancer Research
 Helsinki University Licensing Ltd. Oy
 Seppo Ylä-Herttuala

<120> Use of VEGF-C or VEGF-D Gene or Protein to Prevent Restenosis

<130> 28967/35601A

<140>
 <141>

<150> US 60/105,587
 <151> 1998-10-26

10

<160> 18

<170> PatentIn Ver. 2.0

<210> 1
 <211> 1997
 <212> DNA
 <213> Homo sapiens

<220>
 <221> CDS
 <222> (352)..(1608)

<400> 1

cccgcccccgc ctctccaaaa agctacacccg acgcggaccg cggcgccgtc ctccctcgcc 60
 ctcgcgttacac ctgcgggct ccgaatgcgg ggagctcgga tgtccggttt cctgtgaggc 120
 ttttacactga caccggccgc ctttccccgg cactggctgg gagggcgccc tgcaaagttg 180
 ggaacgcgga gccccggacc cgctcccgcc gcctccggct cgcccgagggg ggttcggccgg 240
 gaggagccccg ggggagaggg accaggaggg gcccgccggcc tcgcaggggc gcccgccccc 300
 ccacccctgc ccccgccagc ggaccgggtcc cccacccccc gtccttccac c atg cac 357
 Met His
 1

20

ttg ctg ggc ttc ttc tct gtg gcg tgt tct ctg ctc gcc gct gcg ctg 405
 Leu Leu Gly Phe Phe Ser Val Ala Cys Ser Leu Leu Ala Ala Ala Leu
 5 10 15

30

ctc ccg ggt cct cgc gag gcg ccc gcc gcc gcc ttc gag tcc 453
 Leu Pro Gly Pro Arg Glu Ala Pro Ala Ala Ala Ala Phe Glu Ser
 20 25 30

gga ctc gac ctc tcc gac gcg gag ccc gac gcg ggc gag gcc acg gct 501
 Gly Leu Asp Leu Ser Asp Ala Glu Pro Asp Ala Gly Glu Ala Thr Ala
 35 40 45 50

tat gca agc aaa gat ctg gag gag cag tta cgg tct gtg tcc agt gta 549
 Tyr Ala Ser Lys Asp Leu Glu Glu Gln Leu Arg Ser Val Ser Ser Val
 55 60 65

gat gaa ctc atg act gta ctc tac cca gaa tat tgg aaa atg tac aag Asp Glu Leu Met Thr Val Leu Tyr Pro Glu Tyr Trp Lys Met Tyr Lys 70 75 80	597
tgt cag cta agg aaa gga ggc tgg caa cat aac aga gaa cag gcc aac Cys Gln Leu Arg Lys Gly Gly Trp Gln His Asn Arg Glu Gln Ala Asn 85 90 95	645
ctc aac tca agg aca gaa gag act ata aaa ttt qct gca gca cat tat Leu Asn Ser Arg Thr Glu Glu Thr Ile Lys Phe Ala Ala Ala His Tyr 100 105 110	693
aat aca gag atc ttg aaa agt att gat aat gag tgg aga aag act caa Asn Thr Glu Ile Leu Lys Ser Ile Asp Asn Glu Trp Arg Lys Thr Gln 115 120 125 130	741
tgc atg cca cgg gag gtg tgt ata gat gtg ggg aag gag ttt gga gtc Cys Met Pro Arg Glu Val Cys Ile Asp Val Gly Lys Glu Phe Gly Val 135 140 145	789
gcc aca aac acc ttc ttt aaa cct cca tgt gtg tcc gtc tac aga tgt Ala Thr Asn Thr Phe Phe Lys Pro Pro Cys Val Ser Val Tyr Arg Cys 150 155 160	837
ggg ggt tgc tgc aat agt gag ggg ctg cag tgc atg aac acc agc acg Gly Gly Cys Cys Asn Ser Glu Gly Leu Gln Cys Met Asn Thr Ser Thr 165 170 175	885
agc tac ctc agc aag acg tta ttt gaa att aca gtg cct ctc tct caa Ser Tyr Leu Ser Lys Thr Leu Phe Glu Ile Thr Val Pro Leu Ser Gln 180 185 190	933
ggc ccc aaa cca gta aca atc agt ttt gcc aat cac act tcc tgc cga Gly Pro Lys Pro Val Thr Ile Ser Phe Ala Asn His Thr Ser Cys Arg 195 200 205 210	981
tgc atg tct aaa ctg gat gtt tac aga caa gtt cat tcc att att aga Cys Met Ser Lys Leu Asp Val Tyr Arg Gln Val His Ser Ile Ile Arg 215 220 225	1029
cgt tcc ctg cca gca aca cta cca cag tgt cag gca gcg aac aag acc Arg Ser Leu Pro Ala Thr Leu Pro Gln Cys Gln Ala Ala Asn Lys Thr 230 235 240	1077
tgc ccc acc aat tac atg tgg aat aat cac atc tgc aga tgc ctg gct Cys Pro Thr Asn Tyr Met Trp Asn Asn His Ile Cys Arg Cys Leu Ala 245 250 255	1125
cag gaa gat ttt atg ttt tcc tcg gat gct gga gat gac tca aca gat Gln Glu Asp Phe Met Phe Ser Ser Asp Ala Gly Asp Asp Ser Thr Asp 260 265 270	1173
gga ttc cat gac atc tgc gat gca aac aag gag ctg gat gaa gag acc Gly Phe His Asp Ile Cys Gly Pro Asn Lys Glu Leu Asp Glu Glu Thr 275 280 285 290	1221
tgt cag tgt gtc tgc aga gca ggg ctt cgg cct gcc agc tgt gga ccc Cys Gln Cys Val Cys Arg Ala Gly Leu Arg Pro Ala Ser Cys Gly Pro 295 300 305	1269

Ser Val Asp Glu Leu Met Thr Val Leu Tyr Pro Glu Tyr Trp Lys Met
 65 70 75 80
 Tyr Lys Cys Gln Leu Arg Lys Gly Gly Trp Gln His Asn Arg Glu Gln
 85 90 95
 Ala Asn Leu Asn Ser Arg Thr Glu Glu Thr Ile Lys Phe Ala Ala Ala
 100 105 110
 His Tyr Asn Thr Glu Ile Leu Lys Ser Ile Asp Asn Glu Trp Arg Lys
 115 120 125
 Thr Gln Cys Met Pro Arg Glu Val Cys Ile Asp Val Gly Lys Glu Phe
 130 135 140
 Gly Val Ala Thr Asn Thr Phe Phe Lys Pro Pro Cys Val Ser Val Tyr
 145 150 155 160 10
 Arg Cys Gly Cys Cys Asn Ser Glu Gly Leu Gln Cys Met Asn Thr
 165 170 175
 Ser Thr Ser Tyr Leu Ser Lys Thr Leu Phe Glu Ile Thr Val Pro Leu
 180 185 190
 Ser Gln Gly Pro Lys Pro Val Thr Ile Ser Phe Ala Asn His Thr Ser
 195 200 205
 Cys Arg Cys Met Ser Lys Leu Asp Val Tyr Arg Gln Val His Ser Ile
 210 215 220
 Ile Arg Arg Ser Leu Pro Ala Thr Leu Pro Gln Cys Gln Ala Ala Asn
 225 230 235 240 20
 Lys Thr Cys Pro Thr Asn Tyr Met Trp Asn Asn His Ile Cys Arg Cys
 245 250 255
 Leu Ala Gln Glu Asp Phe Met Phe Ser Ser Asp Ala Gly Asp Asp Ser
 260 265 270
 Thr Asp Gly Phe His Asp Ile Cys Gly Pro Asn Lys Glu Leu Asp Glu
 275 280 285
 Glu Thr Cys Gln Cys Val Cys Arg Ala Gly Leu Arg Pro Ala Ser Cys
 290 295 300
 Gly Pro His Lys Glu Leu Asp Arg Asn Ser Cys Gln Cys Val Cys Lys
 305 310 315 320
 Asn Lys Leu Phe Pro Ser Gln Cys Gly Ala Asn Arg Glu Phe Asp Glu
 325 330 335 30
 Asn Thr Cys Gln Cys Val Cys Lys Arg Thr Cys Pro Arg Asn Gln Pro
 340 345 350
 Leu Asn Pro Gly Lys Cys Ala Cys Glu Cys Thr Glu Ser Pro Gln Lys
 355 360 365
 Cys Leu Leu Lys Gly Lys Lys Phe His His Gln Thr Cys Ser Cys Tyr
 370 375 380
 Arg Arg Pro Cys Thr Asn Arg Gln Lys Ala Cys Glu Pro Gly Phe Ser
 385 390 395 400

Tyr Ser Glu Glu Val Cys Arg Cys Val Pro Ser Tyr Trp Lys Arg Pro
 405 410 415

Gln Met Ser

<210> 3
 <211> 2029
 <212> DNA
 <213> Homo sapiens

<220>
 <221> CDS
 <222> (411)..(1475)

<400> 3

gttgggttcc agctttctgt agctgttaagc attgggtggcc acaccacctc cttacaaaagc 60
 aactagaacc tgcggcatac attggagaga ttttttaat tttctggaca tgaagtaaat 120
 tttagagtgtt ttcttaatttc aggtagaaga catgtccacc ttctgattat ttttggagaa 180
 cattttgatt ttttcatct ctctctcccc acccctaaga ttgtgcaaaa aaagcgtacc 240
 ttgcctaatt gaaataattt cattggattt tgatcagaac tgattattt 300
 tgaagttttg aggtttcaaa ctttccttct ggagaatgcc ttttcaaaca atttctcta 360
 gctgcctgat gtcaactgct tagtaatcag tggatattga aatattcaaa atg tac 416
 Met Tyr
 1

aga gag tgg gta gtg gtg aat gtt ttc atg atg ttg tac gtc cag ctg 464
 Arg Glu Trp Val Val Val Asn Val Phe Met Met Leu Tyr Val Gln Leu
 5 10 15

gtg cag ggc tcc agt aat gaa cat gga cca gtg aag cga tca tct cag 512
 Val Gln Gly Ser Ser Asn Glu His Gly Pro Val Lys Arg Ser Ser Gln
 20 25 30

tcc aca ttg gaa cga tct gaa cag cag atc agg gct gct tct agt ttg 560
 Ser Thr Leu Glu Arg Ser Glu Gln Gln Ile Arg Ala Ala Ser Ser Leu
 35 40 45 50

gag gaa cta ctt cga att act cac tct gag gac tgg aag ctg tgg aga 608
 Glu Glu Leu Leu Arg Ile Thr His Ser Glu Asp Trp Lys Leu Trp Arg
 55 60 65

tgc agg ctg agg ctc aaa agt ttt acc agt atg gac tct cgc tca gca 656
 Cys Arg Leu Arg Leu Lys Ser Phe Thr Ser Met Asp Ser Arg Ser Ala
 70 75 80

tcc cat cgg tcc act agg ttt gcg gca act ttc tat gac att gaa aca 704
 Ser His Arg Ser Thr Arg Phe Ala Ala Thr Phe Tyr Asp Ile Glu Thr
 85 90 95

cta aaa gtt ata gat gaa gaa tgg caa aga act cag tgc agc cct aga 752
 Leu Lys Val Ile Asp Glu Glu Trp Gln Arg Thr Gln Cys Ser Pro Arg
 100 105 110

10

20

30

gaa acg tgc gtg gag gtg gcc agt gag ctg ggg aag agt acc aac aca Glu Thr Cys Val Glu Val Ala Ser Glu Leu Gly Lys Ser Thr Asn Thr 115 120 125 130	800	
ttc ttc aag ccc cct tgt gtg aac gtg ttc cga tgt ggt ggc tgt tgc Phe Phe Lys Pro Pro Cys Val Asn Val Phe Arg Cys Gly Gly Cys Cys 135 140 145	848	
aat gaa gag agc ctt atc tgt atg aac acc agc acc tcg tac att tcc Asn Glu Glu Ser Leu Ile Cys Met Asn Thr Ser Thr Ser Tyr Ile Ser 150 155 160	896	
aaa cag ctc ttt gag ata tca gtg cct ttg aca tca gta cct gaa tta Lys Gln Leu Phe Glu Ile Ser Val Pro Leu Thr Ser Val Pro Glu Leu 165 170 175	944	
gtg cct gtt aaa gtt gcc aat cat aca ggt tgt aag tgc ttg cca aca Val Pro Val Lys Val Ala Asn His Thr Gly Cys Lys Cys Leu Pro Thr 180 185 190	992	10
gcc ccc cgc cat cca tac tca att atc aga aga tcc atc cag atc cct Ala Pro Arg His Pro Tyr Ser Ile Ile Arg Arg Ser Ile Gln Ile Pro 195 200 205 210	1040	
gaa gaa gat cgc tgt tcc cat tcc aag aaa ctc tgt cct att gac atg Glu Glu Asp Arg Cys Ser His Ser Lys Lys Leu Cys Pro Ile Asp Met 215 220 225	1088	
cta tgg gat agc aac aaa tgt aaa tgt gtt ttg cag gag gaa aat cca Leu Trp Asp Ser Asn Lys Cys Lys Cys Val Leu Gln Glu Glu Asn Pro 230 235 240	1136	
ctt gct gga aca gaa gac cac tct cat ctc cag gaa cca gct ctc tgt Leu Ala Gly Thr Glu Asp His Ser His Leu Gln Glu Pro Ala Leu Cys 245 250 255	1184	20
ggg cca cac atg atg ttt gac gaa gat cgt tgc gag tgt gtc tgt aaa Gly Pro His Met Met Phe Asp Glu Asp Arg Cys Glu Cys Val Cys Lys 260 265 270	1232	
aca cca tgt ccc aaa gat cta atc cag cac ccc aaa aac tgc agt tgc Thr Pro Cys Pro Lys Asp Leu Ile Gln His Pro Lys Asn Cys Ser Cys 275 280 285 290	1280	
ttt gag tgc aaa gaa agt ctg gag acc tgc tgc cag aag cac aag cta Phe Glu Cys Lys Glu Ser Leu Glu Thr Cys Cys Gln Lys His Lys Leu 295 300 305	1328	
ttt cac cca gac acc tgc agc tgt gag gac aga tgc ccc ttt cat acc Phe His Pro Asp Thr Cys Ser Cys Glu Asp Arg Cys Pro Phe His Thr 310 315 320	1376	30
aga cca tgt gca agt ggc aaa aca gca tgt gca aag cat tgc cgc ttt Arg Pro Cys Ala Ser Gly Lys Thr Ala Cys Ala Lys His Cys Arg Phe 325 330 335	1424	
cca aag gag aaa agg gct gcc cag ggg ccc cac agc cga aag aat cct Pro Lys Glu Lys Arg Ala Ala Gln Gly Pro His Ser Arg Lys Asn Pro 340 345 350	1472	

tga ttccagcggttc caagttcccc atccctgtca ttttaacag catgctgctt	1525
355	
tgccaaagttt ctgtcaactgt ttttttccca ggtgttaaaa aaaaaatcca ttttacacag	1585
caccacagtg aatccagacc aaccttccat tcacaccagc taaggagtcc ctggttcatt	1645
gatggatgtc ttcttagctgc agatgcctct ggcaccaag gaatggagag gaggggaccc	1705
atgtaatcct tttgttttagt tttgttttg tttttgggt aatgagaaag gtgtgctggt	1765
catggaatgg caggtgtcat atgactgatt actcagagca gatgagaaaa actgttagtct	1825
ctgagtcctt tgctaatcgc aactcttgc aattattctg attctttttt atgcagaatt	1885
tgattcgtat gatcagtaact gacttctga ttactgtcca gcttatagtc ttccagttt	1945
atgaactacc atctgatgtt tcataattaa gtgtatattaa agaaaataaaa caccattatt	2005
caagccaaaa aaaaaaaaaaaa aaaa	2029
10	
<210> 4	
<211> 354	
<212> PRT	
<213> Homo sapiens	
<400> 4	
Met Tyr Arg Glu Trp Val Val Val Asn Val Phe Met Met Leu Tyr Val	
1 5 10 15	
Gln Leu Val Gln Gly Ser Ser Asn Glu His Gly Pro Val Lys Arg Ser	
20 25 30	20
Ser Gln Ser Thr Leu Glu Arg Ser Glu Gln Gln Ile Arg Ala Ala Ser	
35 40 45	
Ser Leu Glu Glu Leu Leu Arg Ile Thr His Ser Glu Asp Trp Lys Leu	
50 55 60	
Trp Arg Cys Arg Leu Arg Leu Lys Ser Phe Thr Ser Met Asp Ser Arg	
65 70 75 80	
Ser Ala Ser His Arg Ser Thr Arg Phe Ala Ala Thr Phe Tyr Asp Ile	
85 90 95	
Glu Thr Leu Lys Val Ile Asp Glu Glu Trp Gln Arg Thr Gln Cys Ser	
100 105 110	
Pro Arg Glu Thr Cys Val Glu Val Ala Ser Glu Leu Gly Lys Ser Thr	
115 120 125	30
Asn Thr Phe Phe Lys Pro Pro Cys Val Asn Val Phe Arg Cys Gly Gly	
130 135 140	
Cys Cys Asn Glu Glu Ser Leu Ile Cys Met Asn Thr Ser Thr Ser Tyr	
145 150 155 160	
Ile Ser Lys Gln Leu Phe Glu Ile Ser Val Pro Leu Thr Ser Val Pro	
165 170 175	
Glu Leu Val Pro Val Lys Val Ala Asn His Thr Gly Cys Lys Cys Leu	

180

185

190

Pro Thr Ala Pro Arg His Pro Tyr Ser Ile Ile Arg Arg Ser Ile Gln
 195 200 205

Ile Pro Glu Glu Asp Arg Cys Ser His Ser Lys Lys Leu Cys Pro Ile
 210 215 220

Asp Met Leu Trp Asp Ser Asn Lys Cys Lys Cys Val Leu Gln Glu Glu
 225 230 235 240

Asn Pro Leu Ala Gly Thr Glu Asp His Ser His Leu Gln Glu Pro Ala
 245 250 255

Leu Cys Gly Pro His Met Met Phe Asp Glu Asp Arg Cys Glu Cys Val
 260 265 270

Cys Lys Thr Pro Cys Pro Lys Asp Leu Ile Gln His Pro Lys Asn Cys
 275 280 285

Ser Cys Phe Glu Cys Lys Glu Ser Leu Glu Thr Cys Cys Gln Lys His
 290 295 300

Lys Leu Phe His Pro Asp Thr Cys Ser Cys Glu Asp Arg Cys Pro Phe
 305 310 315 320

His Thr Arg Pro Cys Ala Ser Gly Lys Thr Ala Cys Ala Lys His Cys
 325 330 335

Arg Phe Pro Lys Glu Lys Arg Ala Ala Gln Gly Pro His Ser Arg Lys
 340 345 350

Asn Pro

<210> 5
 <211> 20
 <212> DNA
 <213> Artificial Sequence

<220>
 <223> Description of Artificial Sequence: primer

<400> 5
 ttggaggcct aggcttttgc 20

<210> 6
 <211> 20
 <212> DNA
 <213> Artificial Sequence

<220>
 <223> Description of Artificial Sequence: primer

<400> 6
 atactgtcgt cgtccccctca 20

<210> 7
 <211> 22

10

20

30

<212> DNA
<213> Artificial Sequence

<220>
<223> Description of Artificial Sequence: primer

<400> 7
ggtagaagac cccaggact tt 22

<210> 8
<211> 17
<212> DNA
<213> Artificial Sequence

<220>
<223> Description of Artificial Sequence: primer 10

<400> 8
cgccattcgc cattcag 17

<210> 9
<211> 18
<212> DNA
<213> Artificial Sequence

<220>
<223> Description of Artificial Sequence: primer

<400> 9
ctgcttactg gcttatcgc 18 20

<210> 10
<211> 20
<212> DNA
<213> Artificial Sequence

<220>
<223> Description of Artificial Sequence: primer

<400> 10
cctgttctct gttatgttgc 20

<210> 11
<211> 19
<212> DNA 30
<213> Artificial Sequence

<220>
<223> Description of Artificial Sequence: primer

<400> 11
tctccaaaaa gctacacccg 19

<210> 12
<211> 18
<212> DNA
<213> Artificial Sequence

<220>
<223> Description of Artificial Sequence: primer

<400> 12
caagtgcattg gtggaaagg 18

<210> 13
<211> 20
<212> DNA
<213> Artificial Sequence

<220>
<223> Description of Artificial Sequence: primer

<400> 13
tcgatccatg aactttctgc 20 10

<210> 14
<211> 20
<212> DNA
<213> Artificial Sequence

<220>
<223> Description of Artificial Sequence: primer

<400> 14
ttcggttaac tcaagctgcc 20

<210> 15
<211> 19
<212> DNA
<213> Artificial Sequence 20

<220>
<223> Description of Artificial Sequence: primer

<400> 15
gaccctggct ttactgctg 19

<210> 16
<211> 20
<212> DNA
<213> Artificial Sequence

<220>
<223> Description of Artificial Sequence: primer 30

<400> 16
ggaacattta cacgtctgcg 20

<210> 17
<211> 2679
<212> DNA
<213> Artificial Sequence

<220>
<223> Description of Artificial Sequence: chimeric

sequence in which CMV promoter sequence is ligated to Homo sapien VEGF-C sequence

tcaggcagcg aacaagacct gccccaccaa ttacatgtgg aataatcaca tctgcagatg 1800
 cctggctcag gaagatrrta tgtttccctc ggatgctgga gatgactcaa cagatggatt 1860
 ccatgacatc tgtggaccaa acaaggagct ggatgaagag acctgtcagt gtgtctgcag 1920
 agcggggctt cggcctgcca gctgtggacc ccacaaagaa ctagacagaa actcatgcca 1980
 gtgtgtctgt aaaaacaaac tcttccccag ccaatgtggg gccaaccgag aatttgatga 2040
 aaacacatgc cagtgtgtat gtaaaaagaac ctgccccaga aatcaacccc taaatcctgg 2100
 aaaaatgtgcc tgtgaatgtc cagaaagtcc acagaaatgc ttgttaaaag gaaagaagtt 2160
 ccaccaccaa acatgcagct gttacagacg gccatgtacg aaccgccaga aggcttgtga 2220
 gccaggattt tcatatagtg aagaagtgtg tcgttgcgtc cttcatattt ggaaaagacc 2280
 acaaatgagc taagattgtc ctgtttcca gttcatcgat tttctattat ggaaaactgt 2340
 gttgccacag tagaactgtc tgtgaacaga gagacccttg tgggtccatg ctaacaaaga 2400
 caaaaagtctg tcttcctga accatgtgga taactttaca gaaatggact ggagctcatc 2460
 tgcaaaaaggc ctcttgtaaa gactggttt ctgccaatga ccaaacagcc aagattttcc 2520
 tcttgattt tctttaaaag aatgactata taattttattt ccactaaaaa tattgtttct 2580
 gcattcattt ttatagcaac aacaatttgat aaaaactact gtgatcaata tttttatatc 2640
 atgcaaaaata tgtttaaaat aaaaatgaaaa ttgttattat 2679

10

20

<210> 18
 <211> 2240
 <212> DNA
 <213> Mus musculus

<400> 18
 tgtttagaag atgaaccgta agcctaggct agaactgagg gagcctacta ctcccaccc 60
 tccgagggtt ggcggcagga ctgggcagct ggcttaccta ctttctgaa tgctaggta 120
 gtttgaatc accatgcccgg cctggccccc ttctgcccccc attggcaccc tggcttcagt 180
 tccctggcaa catctctgtg tgtgtgtgtg tgtgtgagag agagagatca ggaggaacaa 240
 gggcctgtt ctgcccagca gttgtctctc cttcagggtt ctgcccagact acacagtgc 300
 tacgtgggtt tccacagggtc gtctcactcc ccggccactga ctaactccag aactccaccc 360
 ccgttctcag tgccacaaat ttggtgccaa attctctcca gagaagcctc tctggaaact 420
 tcccagagga tcccattcac cccagggccc tagctctgaa tgactgcaga tcagacaagg 480
 gctcagataa gcataactccc cccccccgtt aaccccccctcc ccacatataa acctacagtt 540
 atgcttccga ggtcaaacac gcaactttt gggtgtgtgt gtatgtcaga aacacgcaat 600
 tattttggag ctcaaagttt gcccactca agaattcatct ctcacccctt ttccaagacc 660
 cgtgccattt gagcaagagt tgggtgtgc ataatgtagt cactaggggg cgctcgccca 720

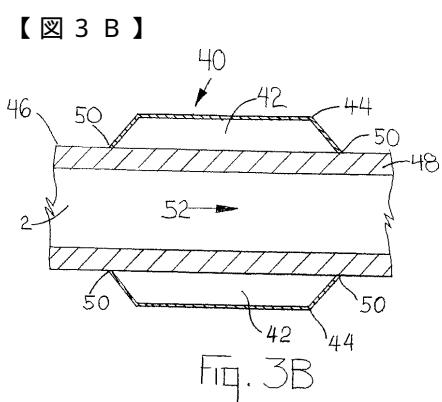
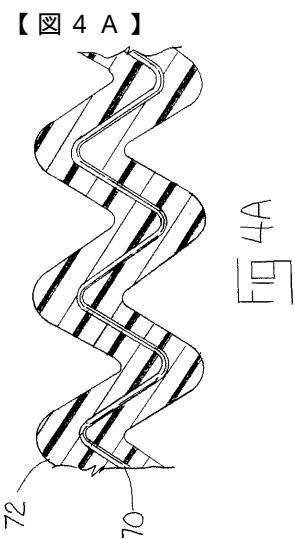
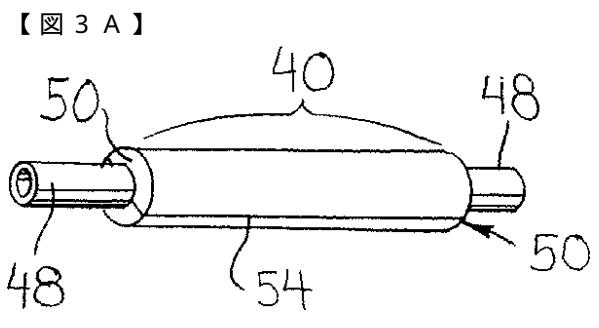
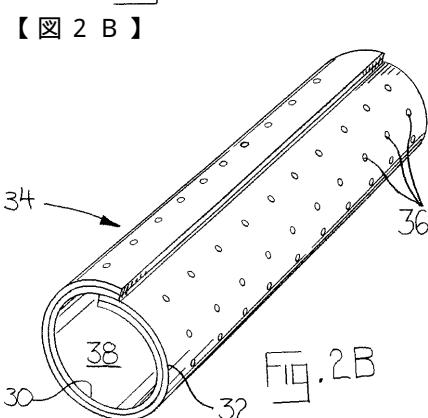
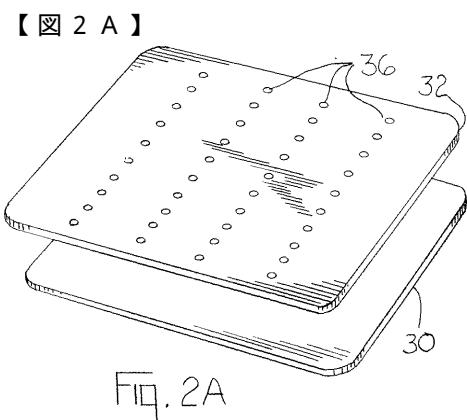
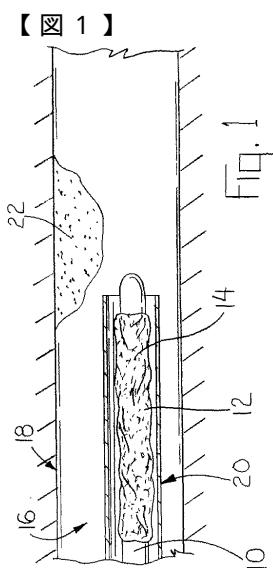
30

tcacggggag atcgtaactt gggcgagccg agtctgcgtg agggaggacg cgtgttcaa 780
 tgtgagtgcg tgcgtgtgtgt gtgtgtgtg tggaggtgg gggagaaagc 840
 caggggtcac tctatgttc cctatctca tacgttcctg ccagctctcc gccttccaac 900
 ccctactttc tcctatatacc tggaaagg aattgtctta gaccctgtcc gcatataacc 960
 tcactctcct gtctccctg attccaaata ctctggatt cccagtgtgt tcctgagccc 1020
 atttgaagg gtgcacagat aattttgagg ccgtggaccc tggtaagggg ttttagcttc 1080
 catttcgccg tagtggccta gggctcccc gaaaggccgt gcctggctcc accagaccgt 1140
 ccccgccggcg ggtctggcg gggcttgggg gtggagctag atttcccttt tttcttccac 1200
 cgctgttacc ggtgagaagc gcagaggctt gggcagccg agctgcagcg agcgcgcggc 1260
 actgggggcg agctgagccg cggcagccga gctctgtcgc gagacgcagc gacaaggcag 1320
 actatcagcg gactcaccag cccggagtc tgtgctctgg gatttgataat tcaaacctct 1380
 taattttttt ttcttaaact gtattgttt acgtttaat ttattttgc ttcttattcc 1440
 cctcttaaat cgtccaaacg gtttgaggag gttggttctt cactccctca aatcacttcg 1500
 gattgtggaa atcagcagac gaaagaggta tcaagagctc cagagagaag tcaaggaaga 1560
 gagagagaga ccggtcagag agagcgcgt ggcgagccaa cagagagagg gacagggca 1620
 aagttgactt gaccttgctt ttgggggtga ccggcagacg gcggcgtgac ctcccccttc 1680
 gatcttgcattt cggaccagtc gcgcgtacgg acagacagac agacaccgcc cccagcccca 1740
 gcgcacccaccc cctcgccggc gggctgccga cggtggacgc ggcggcgagc cgagaaaccg 1800
 aagcccgccgc ccggaggccgg gtggaggggg tcggggctcg cgggattgca cggaaacttt 1860
 tcgtccaaact tctgggtct tctcgctccg tagtagccgt ggtctgcgcc gcaggagaca 1920
 aaccgatccg gagctggag aaggctagct cggccctgga gaggccgggg cccgagaaga 1980
 gagggggagga aggaagagga gagggggcca cagtggccgc tcggctctca ggagccgagc 2040
 tcatggacgg gtgaggccgc cgtgtgcgc gacagtgtc cagccgcgcg cgcgcacccag 2100
 gccccggccccc gggcctcggt tccagaaggg agaggagccc gccaaggccgc gcaagagagc 2160
 gggctgcctc gcagtccgga gccggagaga gggagccgc gccgcccggg ccccgacgg 2220
 cttccgaaac catgaacttt 2240

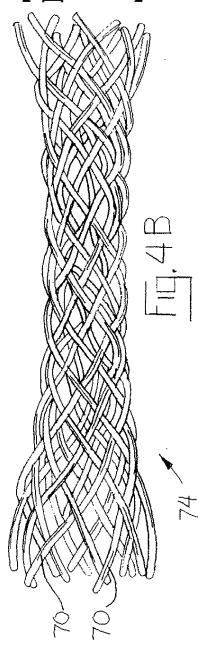
10

20

30



【図 4 B】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.		F I
A 6 1 M 25/00	(2006.01)	A 6 1 M 25/00 3 0 6 Z
A 6 1 F 2/82	(2006.01)	A 6 1 M 29/02
A 6 1 P 7/02	(2006.01)	A 6 1 P 7/02
A 6 1 P 41/00	(2006.01)	A 6 1 P 41/00
A 6 1 P 43/00	(2006.01)	A 6 1 P 43/00 1 0 7
		A 6 1 L 33/00 T

(74)代理人 100137497

弁理士 大森 未知子

(73)特許権者 501172176

セッポ、イラ ヘルトウアラ

S E P P O Y L A - H E R T T U A L A

フィンランド国クオピオ、ピー.オー.ボックス、1627、エイ.アイ.ビルタネン、インスティテュート、ユニバーシティ、オブ、クオピオ

(74)代理人 100075812

弁理士 吉武 賢次

(74)代理人 100091487

弁理士 中村 行孝

(74)代理人 100094640

弁理士 紺野 昭男

(74)代理人 100107342

弁理士 横田 修孝

(72)発明者 セッポ、イラ ヘルトウアラ

フィンランド国クオピオ、ピー.オー.ボックス、1627、エイ.アイ.ビルタネン、インスティテュート、ユニバーシティ、オブ、クオピオ

(72)発明者 カリ、アリタロ

フィンランド国ヘルシンキ(ハールトマニンカトウ、3)、ピー.オー.ボックス、21、モレキユラー/キャンサー、バイオロジー、ラボラトリー、ハールトマン、インスティテュート、ユニバーシティ、オブ、ヘルシンキ

(72)発明者 ミッコ、オー.ヒルトウネン

フィンランド国クオピオ、ピー.オー.ボックス、1627、エイ.アイ.ビルタネン、インスティテュート、ユニバーシティ、オブ、クオピオ

(72)発明者 マルク、エム.ジェルトシュ

フィンランド国ヘルシンキ、(ハールトマニンカトウ、3)、ピー.オー.ボックス、21、モレキユラー/キャンサー、バイオロジー、ラボラトリー、ハールトマン、インスティテュート、ユニバーシティ、オブ、ヘルシンキ

(72)発明者 マルク、ジー.アーヘン

オーストラリア連邦ビクトリア州、パークビル、ピー.オー.ボックス、ロイヤル、メルボルン、ホスピタル、メルボルン、ブランチ、ルードビッヒ、インスティテュート、フォー、キャンサー、リサーチ

審査官 田村 聖子

(56)参考文献 国際公開第97/012519 (WO, A1)

国際公開第98/010071 (WO, A1)

Genomics, 1997年, Vol.42, P.483-488

現代医療, 1998年 7月, Vol.30, No.7, P.1751-1756

The EMBO Journal, 1996年, Vol.15, No.2, P.290-298
Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 1998年 1月, Vol.95, P.548-553

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A61K 38/00-38/58

A61K 48/00

JSTPlus/JMEDPlus/JST7580(JDreamII)